

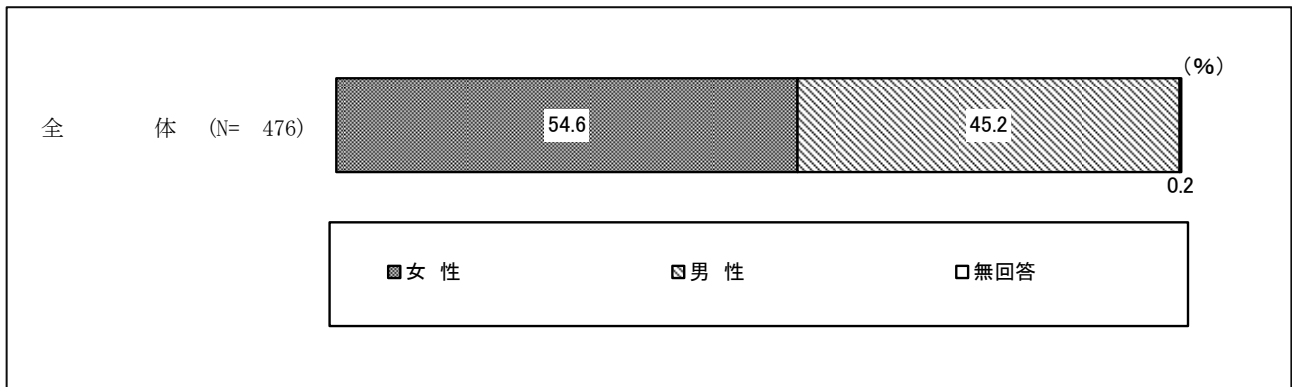
## 第2部 調査結果の概要

---

## 第2部 調査結果の概要

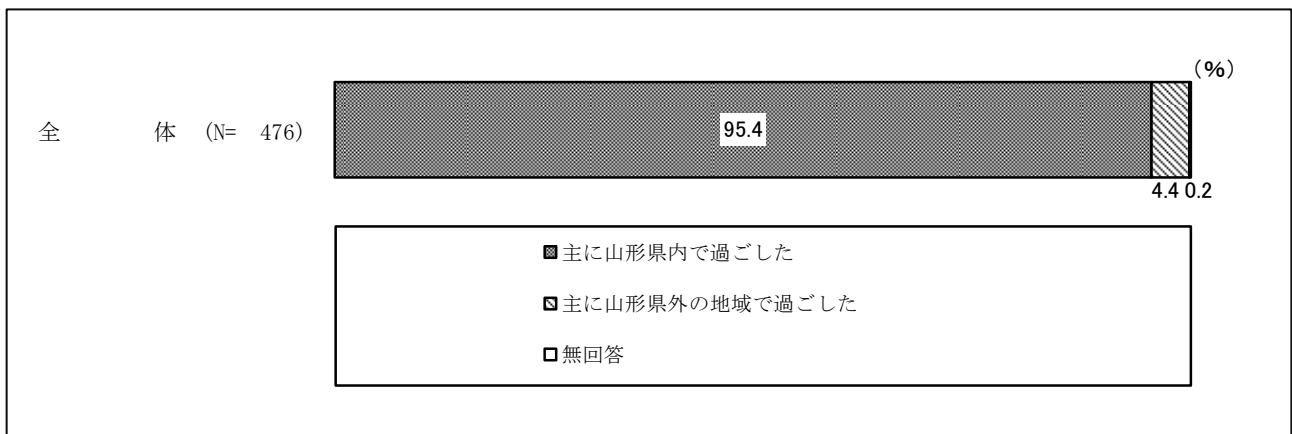
### I 回答者の属性

#### 1. 性別



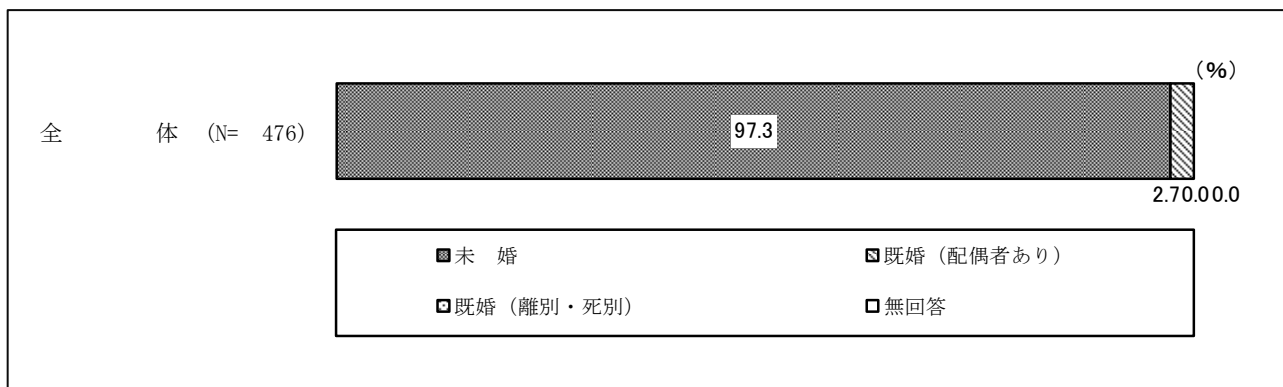
性別は、女性が54.6%となっており、男性（45.2%）をやや上回る。

#### 2. 生活地域（小学校～高等学校）



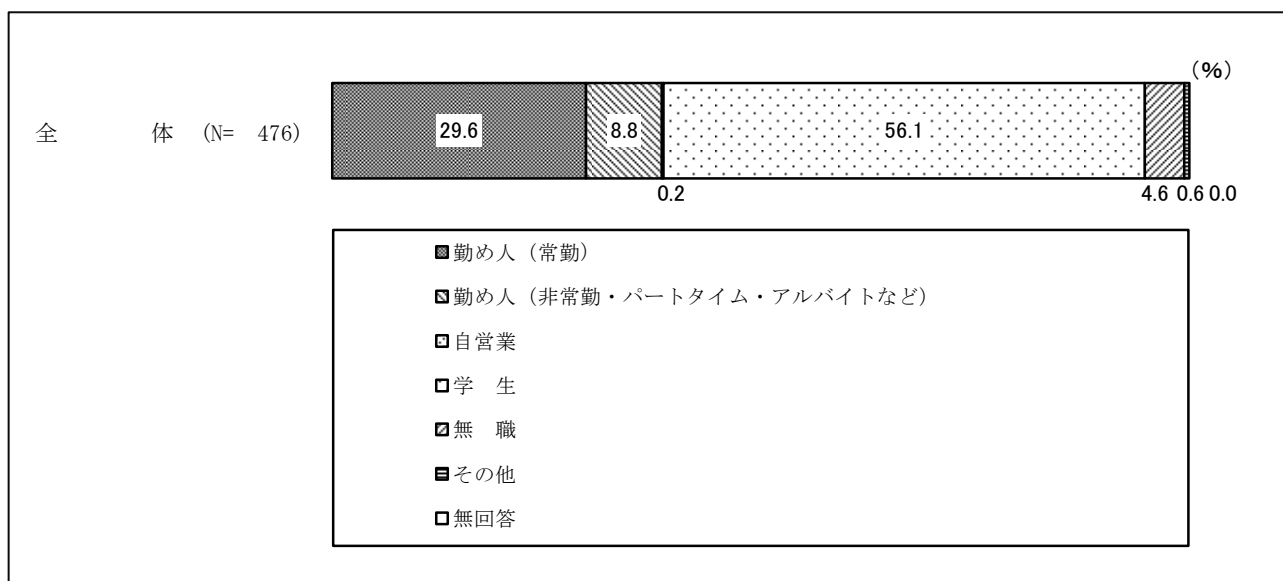
小学校入学から高等学校卒業までの間に主に過ごした地域は、「主に山形県内で過ごした」人が95.4%を占めている。一方、「主に山形県外の地域で過ごした」人は4.4%である。

### 3. 婚姻歴



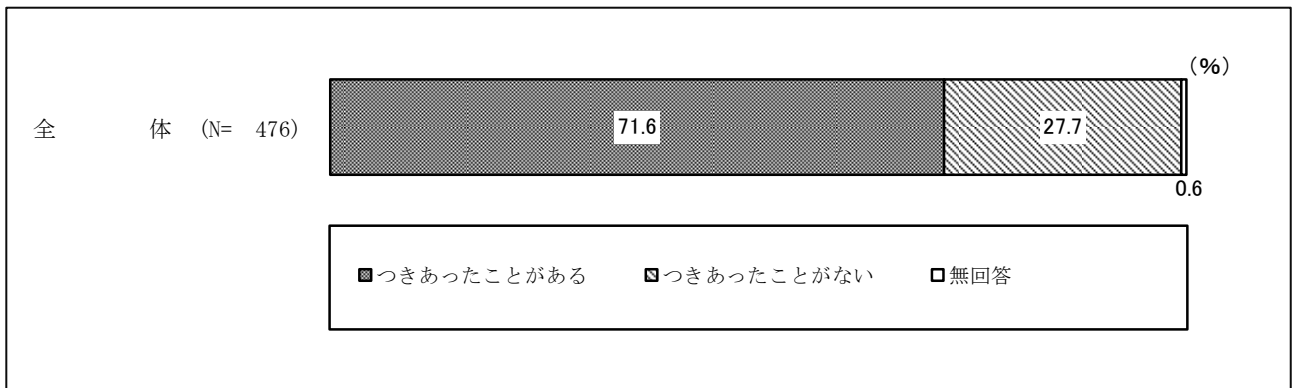
婚姻歴は、「未婚」が97.3%を占めている。一方、「既婚 (配偶者あり)」は2.7%である。

### 4. 職業



職業は、「学生」が56.1%と最も多く、以下、「勤め人 (常勤)」(29.6%)、「勤め人 (非常勤・パートタイム・アルバイトなど)」(8.8%)、「無職」(4.6%)、「自営業」(0.2%) などとなっている。

## 5. 交際経験の有無



交際の経験は、「つきあったことがある」人が 71.6%を占めており、「つきあったことがない」(27.7%) を大きく上回っている。

性別では、「つきあったことがある」人は、女性では 74.6%と男性 (68.4%) をやや上回る。

## 【 性別 】

	調査数	あつきあつたことが	ないきあつたことが	無回答
上段：件数 下段：%				
全 体	476 100.0	341 71.6	132 27.7	3 0.6
女 性	260 100.0	194 74.6	64 24.6	2 0.8
男 性	215 100.0	147 68.4	67 31.2	1 0.5

## Ⅱ 調査結果のあらまし

### 1. 『DV／デートDV』の認知度と学習機会

『DV／デートDV』の認知度について、『DV（ドメスティックバイオレンス）』は、「言葉も意味も知っていた」人が93.3%を占めている。

一方、『デートDV』の認知度は、「言葉も意味も知っていた」人が34.0%と低く、「言葉も意味も知らなかった」人は男性が62.3%と女性（48.8%）よりも多くなっている。また、デートDVに関する学習機会別に見ると、学習機会があった人では「言葉も意味も知っていた」が81.1%を占めている。

このことから、『デートDV』の言葉や意味の更なる周知が必要であるとともに、『デートDV』の周知には学習機会が重要なことがうかがえる。

なお、学校での『デートDV』の学習機会があった人の割合は、23.3%となっている。

### 2. 恋人などからの行為における暴力としての認識と暴力の許容度

恋人などからの行為において暴力だと思う態度や行動としては、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」、「性的な行為を無理強いする」、「大声でどなったり傷つくことばを言う」が7割以上となっている。一方、「何を言っても長時間無視し続ける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が約4割半ば、「暴力だとは思わない」が2割前後と意見が分かれるなど、身体的・性的な暴力は暴力としての認識が高く、精神的・社会的な暴力は暴力としての認識が低い傾向がある。なお、『デートDV』の言葉も意味も知っていた人は「暴力だと思う」との回答が多くなっている。

デートDVにつながるような暴力に関する許容度については、暴力を許容しない考えを持つ人が73.1%を占めているものの、男性（64.7%）は女性（80.0%）よりもその意識が低くなっている。

今後、身体的・性的な暴力だけでなく、精神的・社会的な暴力も含め、『デートDV』の正しい理解を促進していくことが必要であると推察される。

### 3. デートDVの実態・相談状況

デートDVの実態について、友達などがされたり、しているのを見聞きしたことがある行為は、多い順に「携帯のチェック、友達づきあいの制限」、「大声でどなったり傷つくことばを言う」、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」となっている。また、回答者自身の被害経験では、「大声でどなったり傷つくことばを言う」が最も多く9.9%となっている。

また、回答者自身がデートDVを初めて経験した時期は、被害・加害ともに高校・大学で約6割を占めており、DVを未然に防止するためには、高校・大学等の若年層への啓発・教育の必要性があることがうかがえる。

デートDVの相談状況については、被害にあった友達などの「相談にのった」人が63.7%となっている。一方、回答者自身が被害を受けた際、「相談した」人は、男性（45.7%）より女性（57.4%）が多く、「相談したいと思わなかった」人は、女性（18.0%）より男性（42.9%）が多くなっている。

る。相談しなかった理由として、女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」、「自分さえ我慢すればよいと思ったから」などが多く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(93.3%)が多い。また、デートDVを受けたときの相談相手は、「友人・知人」(90.2%)、「家族」(25.5%)といった身近な人への相談が多く、相談後の心情の変化として「気持ちが楽になった」(62.7%)と感じている人が多い。

今後、女性被害者だけでなく、男性被害者も相談しやすいよう広く相談窓口を周知していく必要があると考えられる。

#### 4. デートDVの背景

デートDVの背景について、性別による固定的な役割分担意識では、「性別に関係なくお互いに助け合うべきである」、「男性も女性もお互いの意見を主張し、話し合うべきである」、「男性も女性も自由に職業を選択することができるべきである」、「男性も女性もともに仕事と家庭に責任を持つべきである」が約9割と、否定的な意識を持っている人が多く、特に女性はよりその傾向が強い。デートDVに関する学習機会別に見ると、学習機会がなかった人は「女性は結婚したら、自分より夫や子どものことを優先させるべき」が約6ポイント上回っている。

また、親や祖父母などの家族の関係としては、「家族間の意見の相違等は、話し合っ解決されていたと思う」(46.6%)が最も多いものの、「どちらかという家族間に一方的な暴力や暴言があったと思う」(12.8%)、「家族から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」(10.5%)との回答も見られ、被害経験があった人は、「家族から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」が17.7%とそうでない場合を上回っている。

#### 5. デートDV防止のために

DVに関する相談窓口の認知については、「警察安全相談」(16.6%)などすべての項目において認知度は低く、「知らない」人が66.2%となっている。

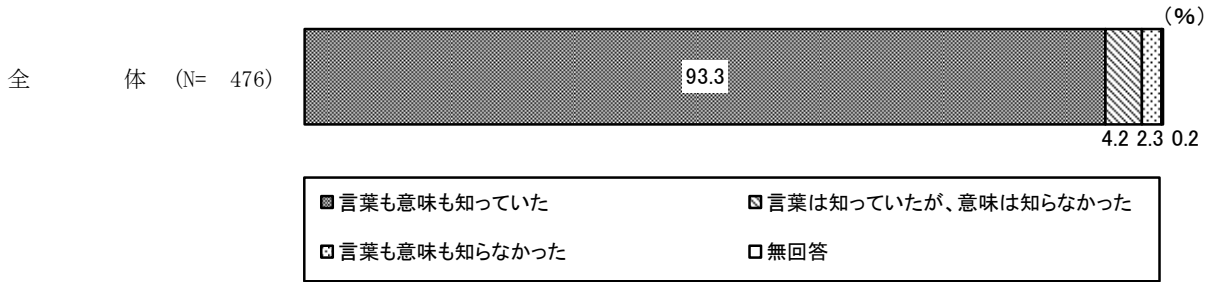
デートDVをなくすために必要だと思う取組みとしては、「高等学校でデートDVを防止するための教育を行う」(67.9%)、「デートDVについて相談できる窓口を広く周知する」(59.7%)、「中学校でデートDVを防止するための教育を行う」(53.8%)、「パンフレットやメディアを活用して広報・啓発活動を積極的に行う」(51.1%)、「大学・短期大学でデートDVを防止するための教育を行う」(47.7%)など、学校での学習機会や周知・啓発を挙げる人が多い。また、デートDVに関する学習機会があった人は、より取組みの必要性を感じており、特に学校での教育が必要だと考えている。

今後は、デートDV防止に向けて、学校での学習機会の確保や相談窓口などの周知徹底が必要であると考えられる。

### Ⅲ 『DV／デートDV』の認知度と学習機会

#### 1. 『DV（ドメスティックバイオレンス）』の認知度

問2 あなたは『DV（ドメスティックバイオレンス）』という言葉を見たり、聞いたりして知っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。【○は1つ】



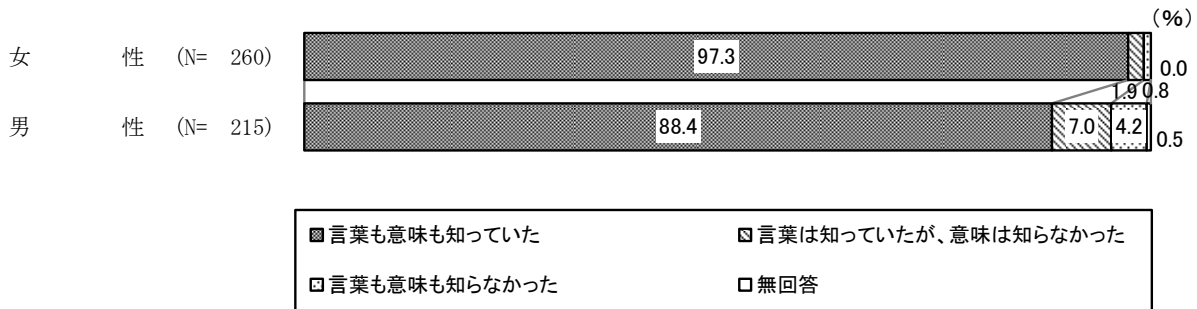
◎ 『DV（ドメスティックバイオレンス）』の言葉の認知度は約98%となっており、男性より女性の認知度が高い

『DV（ドメスティックバイオレンス）』を知っているかについてたずねたところ、「言葉も意味も知っていた」人は93.3%を占めている。

一方、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」人は4.2%、「言葉も意味も知らなかった」人は2.3%と少ない。

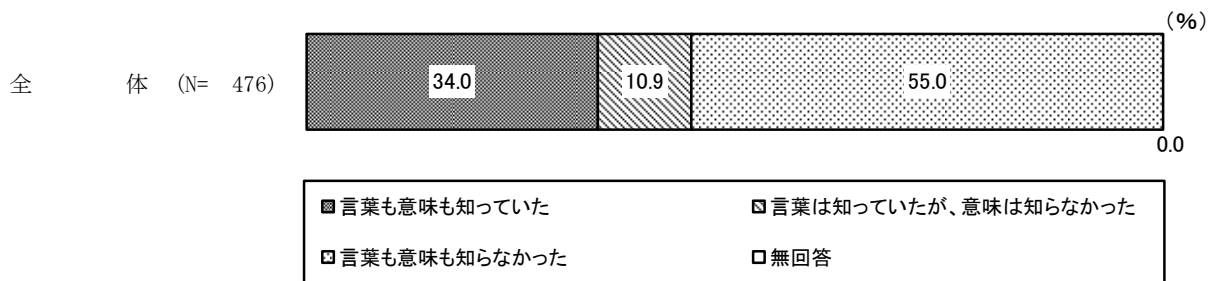
性別に見ると、「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合は、女性（97.3%）が男性（88.4%）より8.9ポイント高くなっている。

『DV（ドメスティックバイオレンス）』の認知度（性別）



## 2. 『デートDV』の認知度

問3 あなたは『デートDV』という言葉を見たり、聞いたりして知っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。【○は1つ】



◎『デートDV』の言葉の認知度は約45%となっているが、デートDVに関する学習機会があった人となかった人との差が大きい

『デートDV』についてたずねたところ、「言葉も意味も知らなかった」人が55.0%と最も多く、「言葉も意味も知っていた」(34.0%)と「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(10.9%)の合計を上回り、『DV (ドメスティックバイオレンス)』の認知度に比べて『デートDV』の認知度は低い。

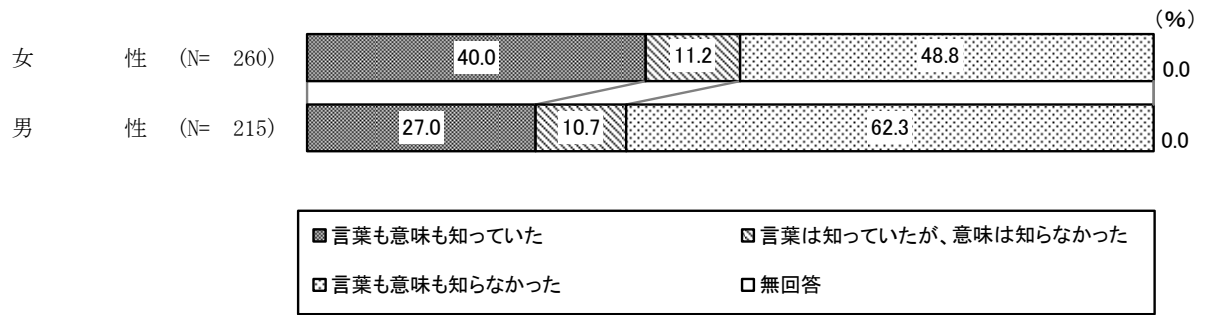
性別に見ると、「言葉も意味も知っていた」女性は40.0%と、男性(27.0%)を大きく上回っている。

デートDVに関する学習機会別に見ると、「言葉も意味も知っていた」では、「はい(学習機会があった)」(81.1%)が「いいえ(学習機会がなかった)」(19.6%)を大きく上回っている。

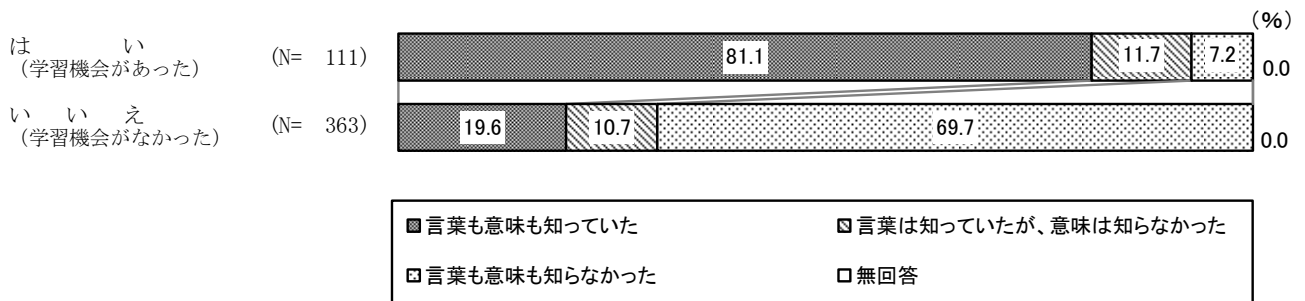


第2部 調査結果の概要

『デートDV』の認知度（性別）

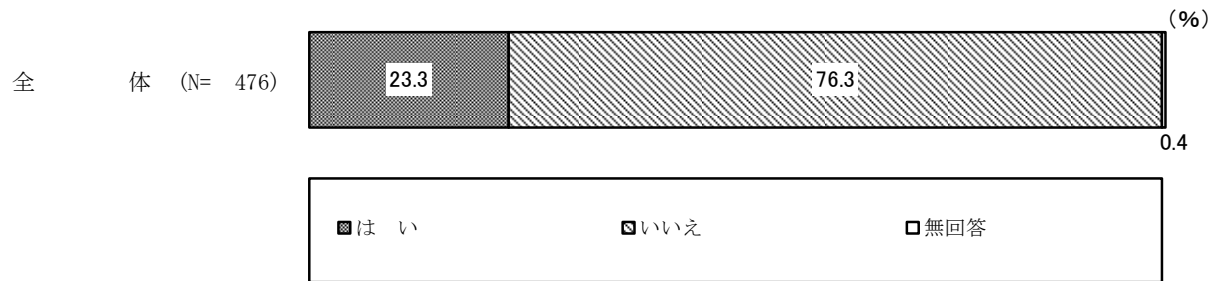


『デートDV』の認知度（デートDVに関する学習機会別）



### 3. 『デートDV』に関する学習機会

問4 あなたは、これまでに学校の保健講話・いのちの日・保健体育・講義などで『デートDV』について、話を聞いたことはありますか。【〇は1つ】



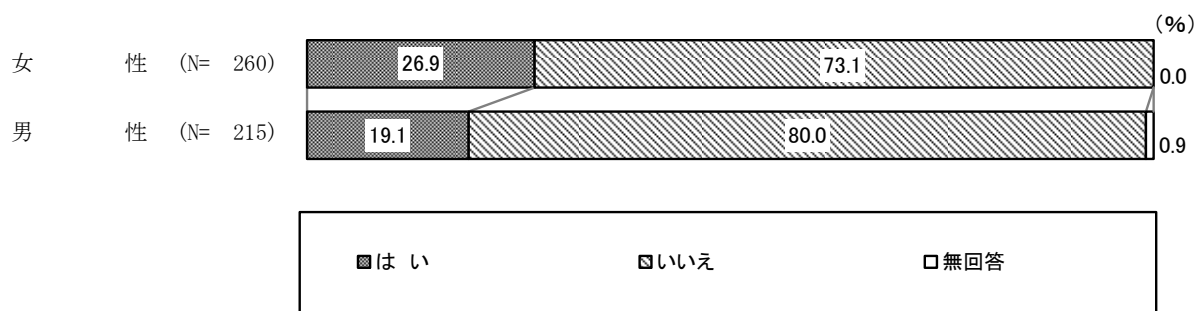
#### ◎ 『デートDV』に関して、これまでに学校で学習の機会があった人は、約23%

これまでに学校で『デートDV』の話を聞いたことがあるかをたずねたところ、「いいえ」が76.3%を占めており、「はい」(23.3%)を大きく上回っている。

性別に見ると、「はい」と答えた女性が26.9%と、男性(19.1%)をやや上回っている。

デートDVの認知度別に見ると、「はい」と答えた人は、「言葉も意味も知っていた」が55.6%となっており、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(25.0%)と「言葉も意味も知らなかった」(3.1%)では3割未満にとどまっている。

『デートDV』に関する学習機会（性別）



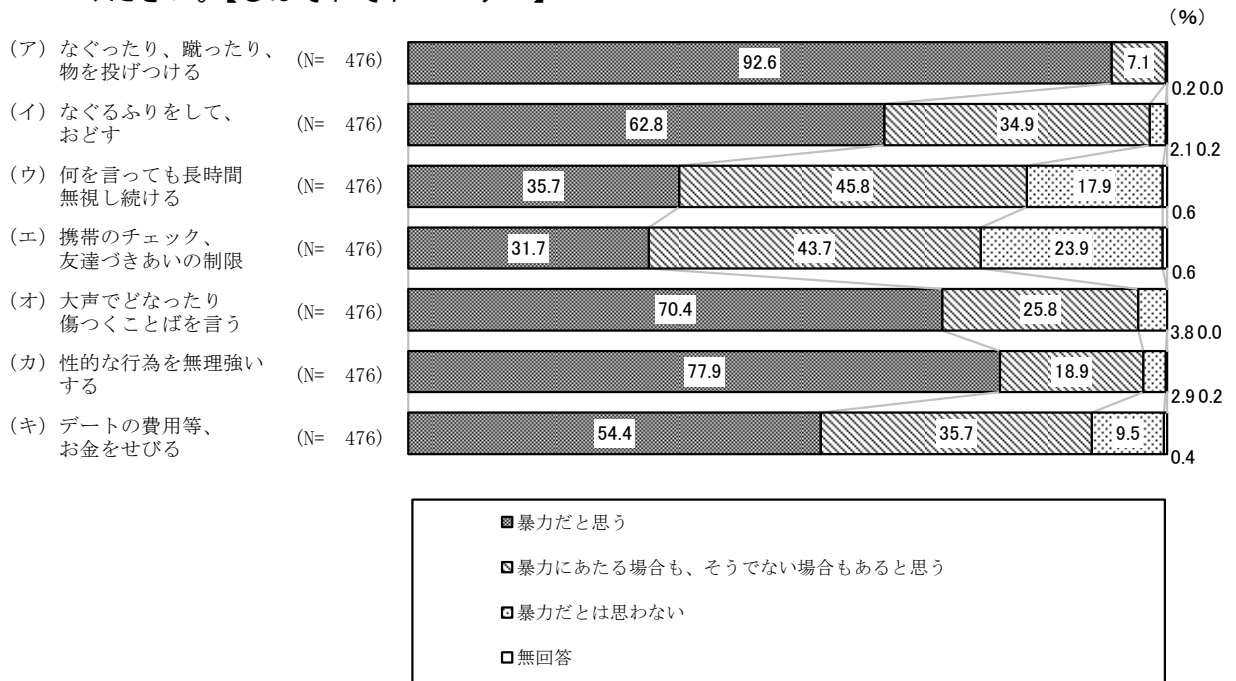
『デートDV』に関する学習機会（デートDVの認知度別）

	調査数	はい	いいえ	無回答
全体	476	111	363	2
上段：件数 下段：%				
言葉も意味も知っていた	162	90	71	1
	100.0	55.6	43.8	0.6
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	52	13	39	0
	100.0	25.0	75.0	0.0
言葉も意味も知らなかった	262	8	253	1
	100.0	3.1	96.6	0.4

## IV 恋人などからの行為における暴力としての認識と暴力の許容度

### 1. 恋人などからの行為における暴力としての認識

問5 恋人などの親密な関係にある人からの、次のような態度や行動について、あなたはそれを暴力だと思いますか。(ア)～(キ)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。【○はそれぞれ1つずつ】



◎「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」、「性的な行為を無理強いする」などの身体的・性的な暴力は暴力としての認識が高く、「何を言っても長時間無視し続ける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」などの精神的・社会的な暴力は暴力としての認識が低い傾向

暴力だと思う恋人などからの態度や行動をたずねたところ、「暴力だと思う」行為は、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」(92.6%)が最も多く、次いで「性的な行為を無理強いする」(77.9%)、「大声でどなったり傷つくことばを言う」(70.4%)となっている。

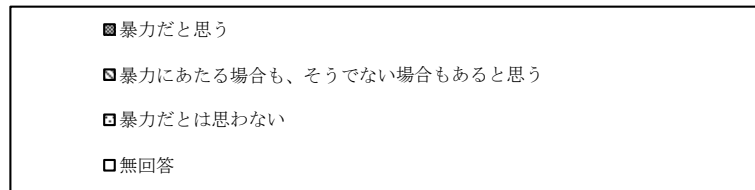
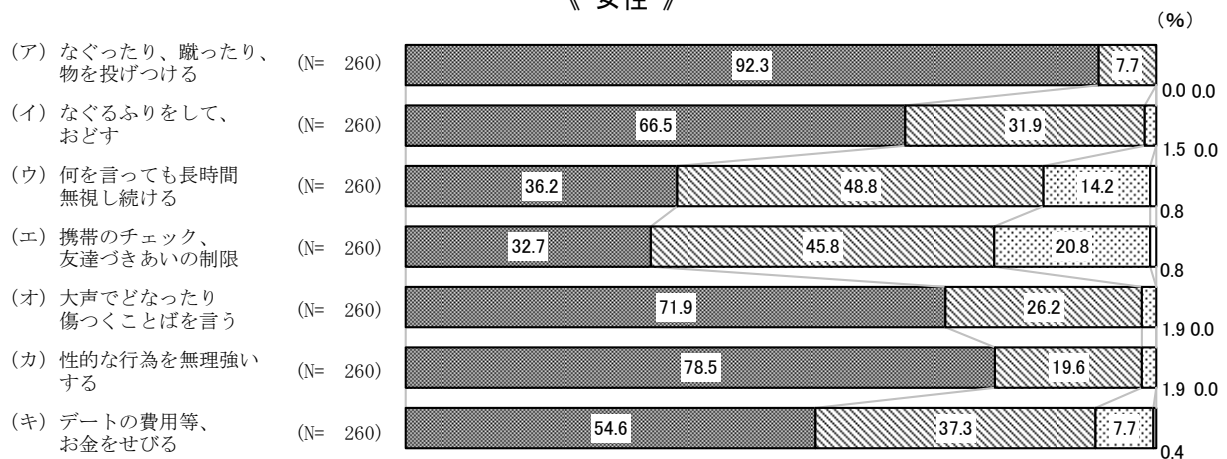
一方、「何を言っても長時間無視し続ける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が約4割半ば、「暴力だとは思わない」が2割前後と意見が分かれる。

性別に見ると、「なぐるふりをして、おどす」について「暴力だと思う」人の割合は、女性(66.5%)が男性(58.1%)をやや上回っている。また、「何を言っても長時間無視し続ける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」について、「暴力だとは思わない」人の割合は女性より男性の方が多く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人の割合は男性より女性の方が多くなっている。

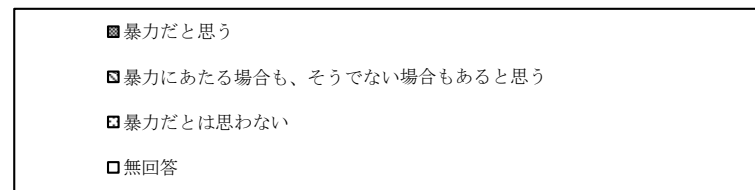
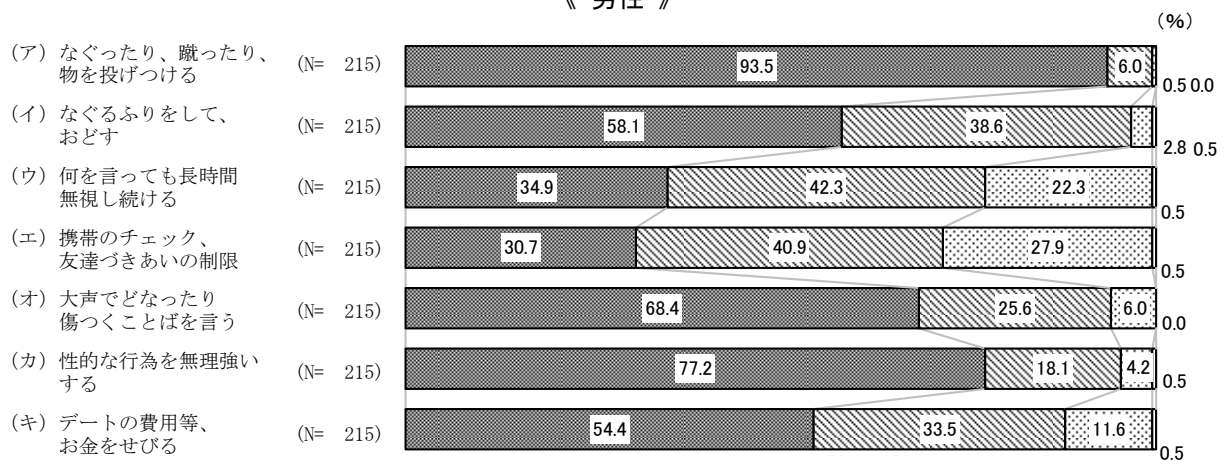
デートDVの認知度別に見ると、「言葉も意味も知っていた」人はほとんどの項目で「暴力だと思ふ」が多くなっている。一方、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」、「言葉も意味も知らなかった」人では、「何を言っても長時間無視し続ける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」について、「暴力だとは思わない」が多い。

恋人などからの行為における暴力としての認識（性別）

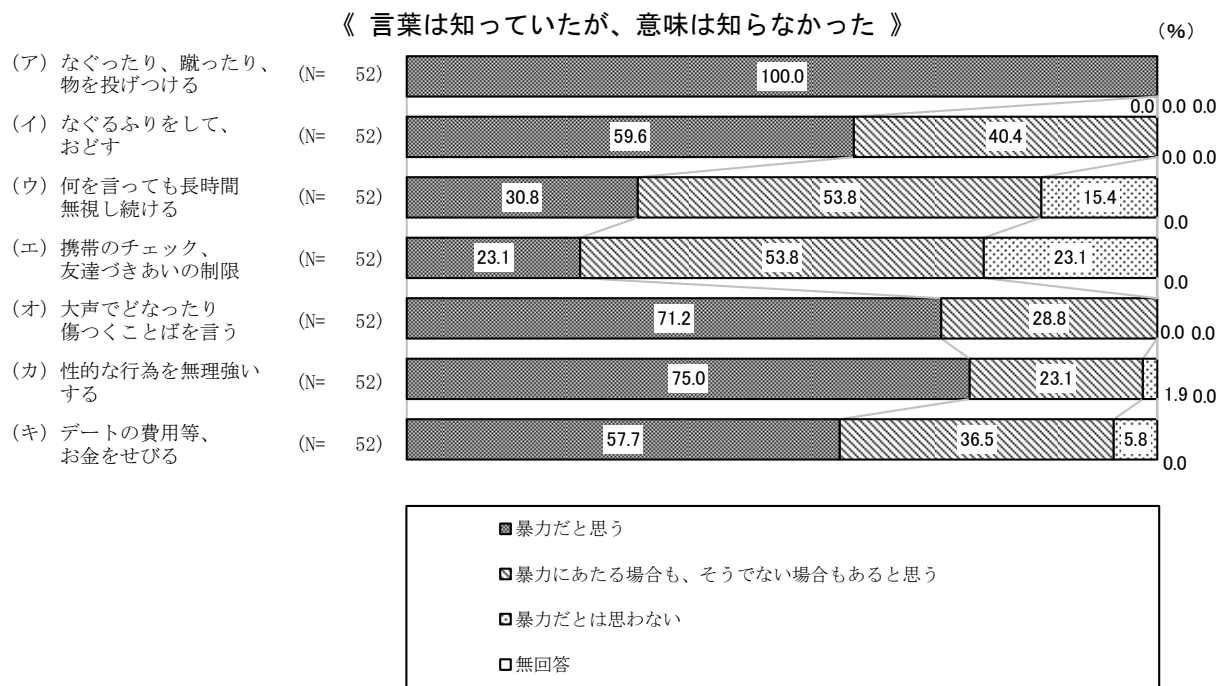
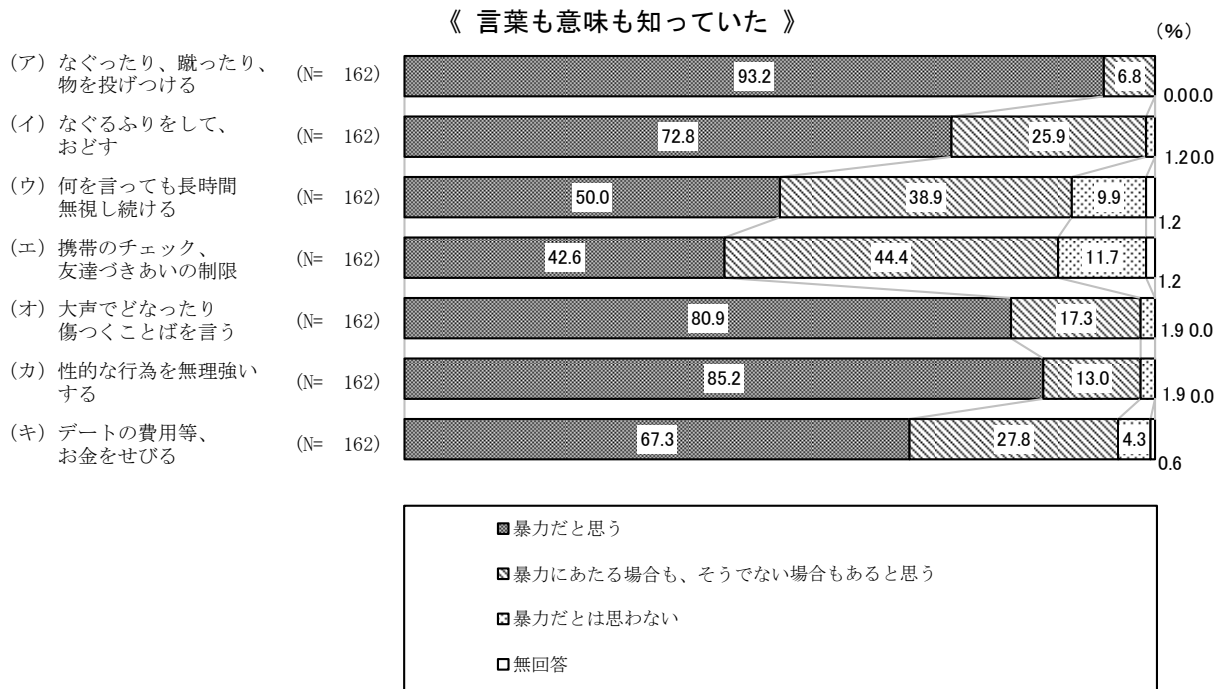
《女性》



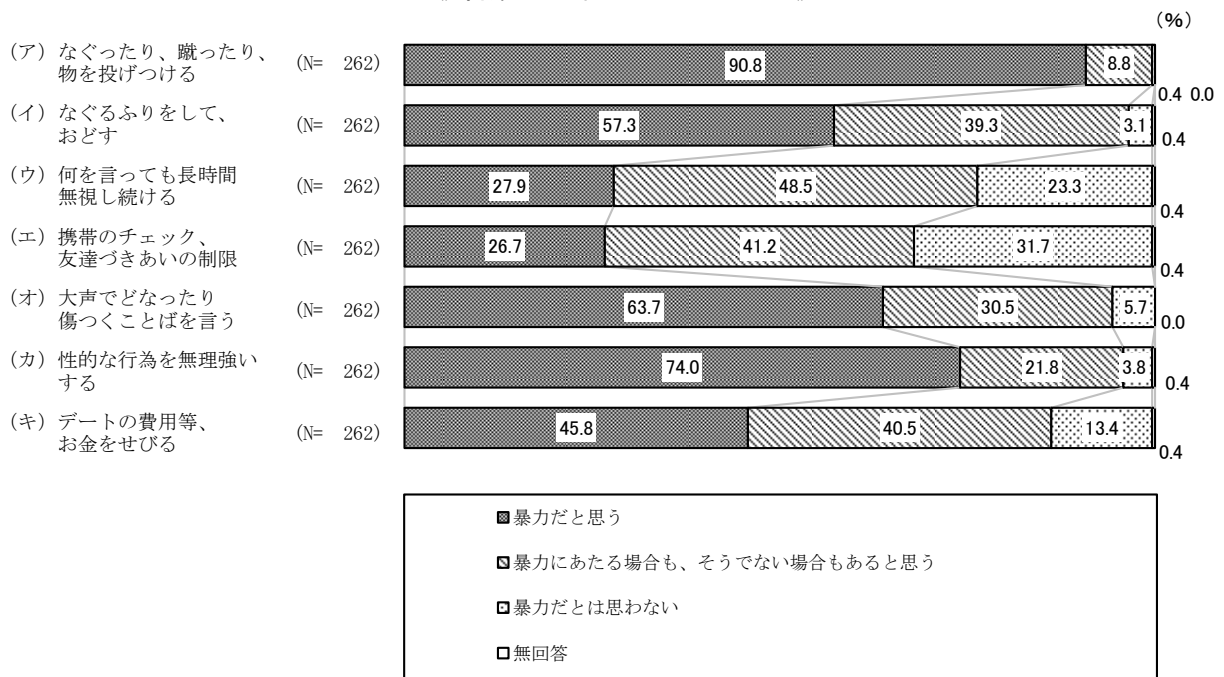
《男性》



恋人などからの行為における暴力としての認識（デートDVの認知度別）



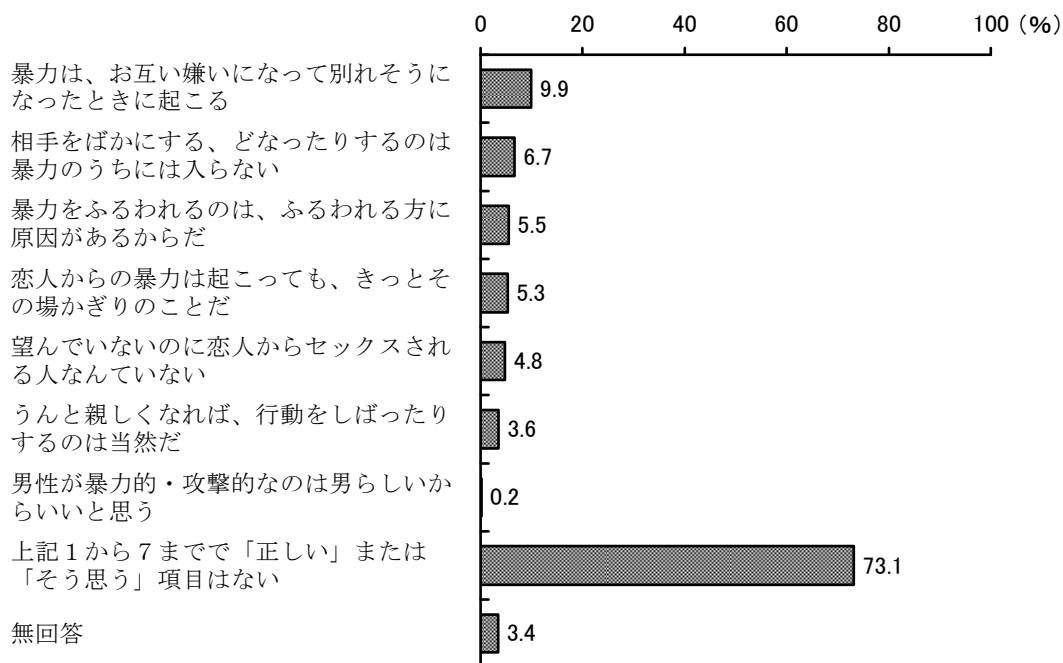
《 言葉も意味も知らなかった 》



## 2. 暴力の許容度

問6 あなたが「正しい」または「そう思う」番号に○をつけてください。【○はいくつでも】

全体 (N= 476)



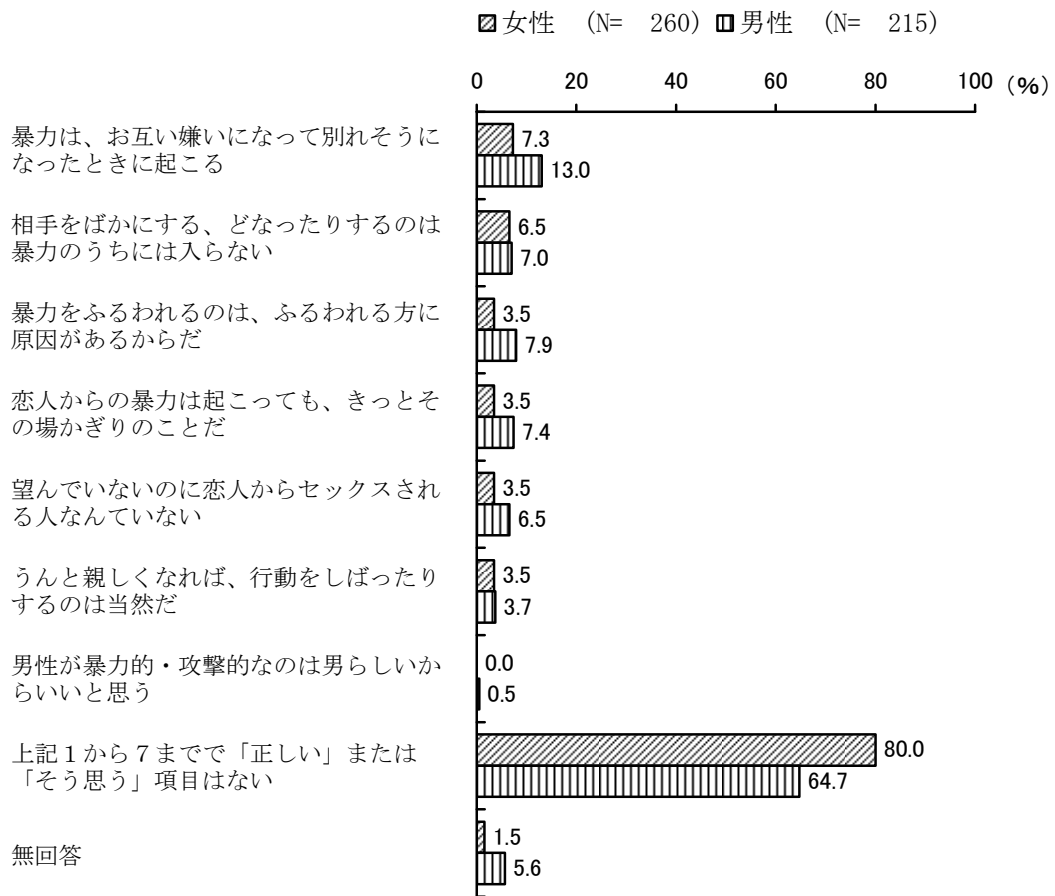
### ◎デートDVにつながるような暴力を許容しない考えを持つ人は、約73%

デートDVにつながるような暴力に関する許容度を問う項目について、許容にあたる“正しい”または“そう思う”ことをたずねたところ、「暴力は、お互い嫌いになって別れそうになったときに起こる」が9.9%と最も多く、以下、「相手をばかにする、どなったりするのは暴力のうちには入らない」(6.7%)、「暴力をふるわれるのは、ふるわれる方に原因があるからだ」(5.5%)、「恋人からの暴力は起こっても、きっとその場かぎりのことだ」(5.3%) などとなっている。

一方、“正しい”または“そう思う”項目はないとしたデートDVにつながるような暴力を許容しない考えを持つ人は、73.1%を占めている。

性別に見ると、「“正しい”または“そう思う”項目はない」は、女性が80.0%で男性(64.7%)を上回っている。「暴力は、お互い嫌いになって別れそうになったときに起こる」では、男性が13.0%で女性(7.3%)をやや上回っている。

暴力の許容度（性別）

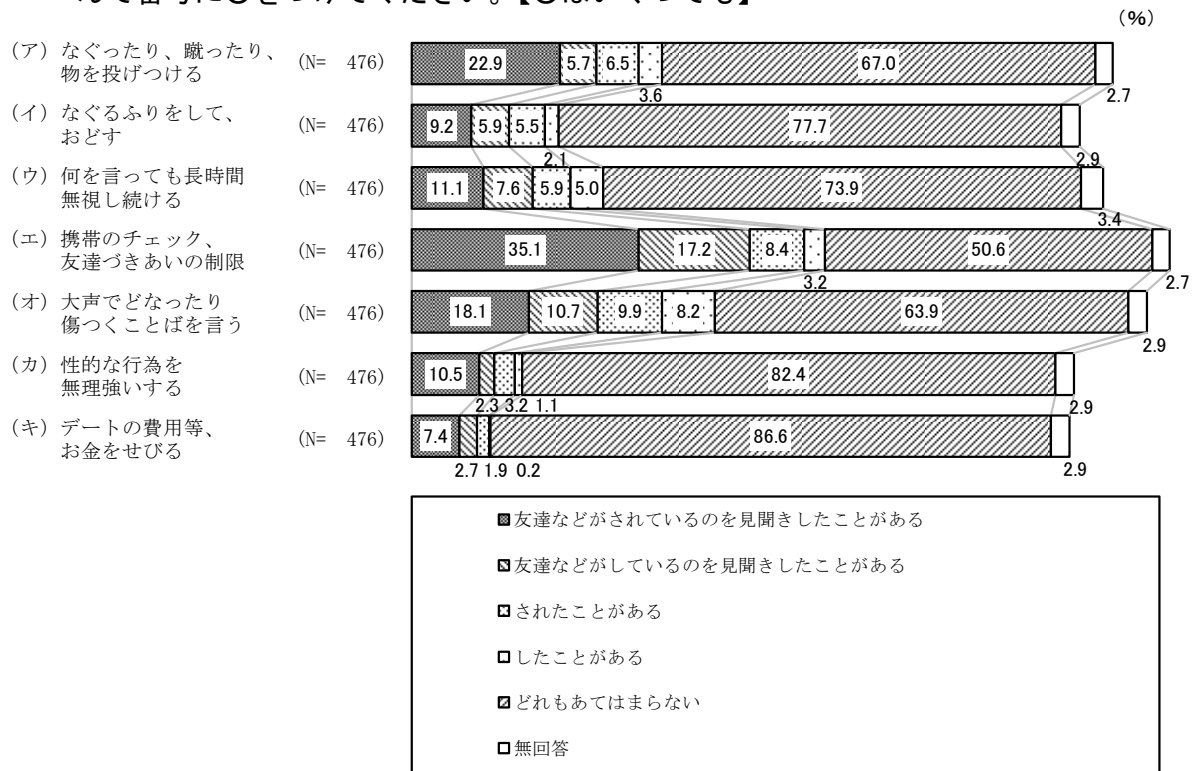




# V デートDVの実態・相談状況

## 1. デートDVの実態

問7 あなたのこれまでの経験の中でのできごとについてお聞きします。次のような態度や行動を、あなたの友達などがされたり、しているのを、見聞きしたことがありますか。また、恋人などの親密な関係にある人から、次のような態度や行動をあなたがされたり、したことがありますか。(ア)～(キ)のそれぞれについて、あてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。【○はいくつでも】



◎友達の被害・加害経験では、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」が最も多い  
 回答者自身の被害・加害経験では、「大声でどなったり傷つく言葉を言う」が最も多い

デートDVに関するこれまでの経験について、「友達などがされているのを見聞きしたことがある」《友達の被害経験》、「友達などがしているのを見聞きしたことがある」《友達の加害経験》、回答者自身が「されたことがある」《被害経験》、「したことがある」《加害経験》をたずねた。

《友達の被害経験》《友達の加害経験》を併せた《友達の被害・加害経験》が多い項目は、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」、「大声でどなったり傷つくことばを言う」となっており、特に「携帯のチェック、友達づきあいの制限」は52.3%を占める。

また、《被害経験》が多い項目は、「大声でどなったり傷つくことばを言う」(9.9%)、「携帯のチェック、友達づきあいの制限」(8.4%)、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」(6.5%)となっている。

一方、《加害経験》が多い項目は、「大声でどなったり傷つくことばを言う」(8.2%)、「何を言っても長時間無視し続ける」(5.0%)となっている。

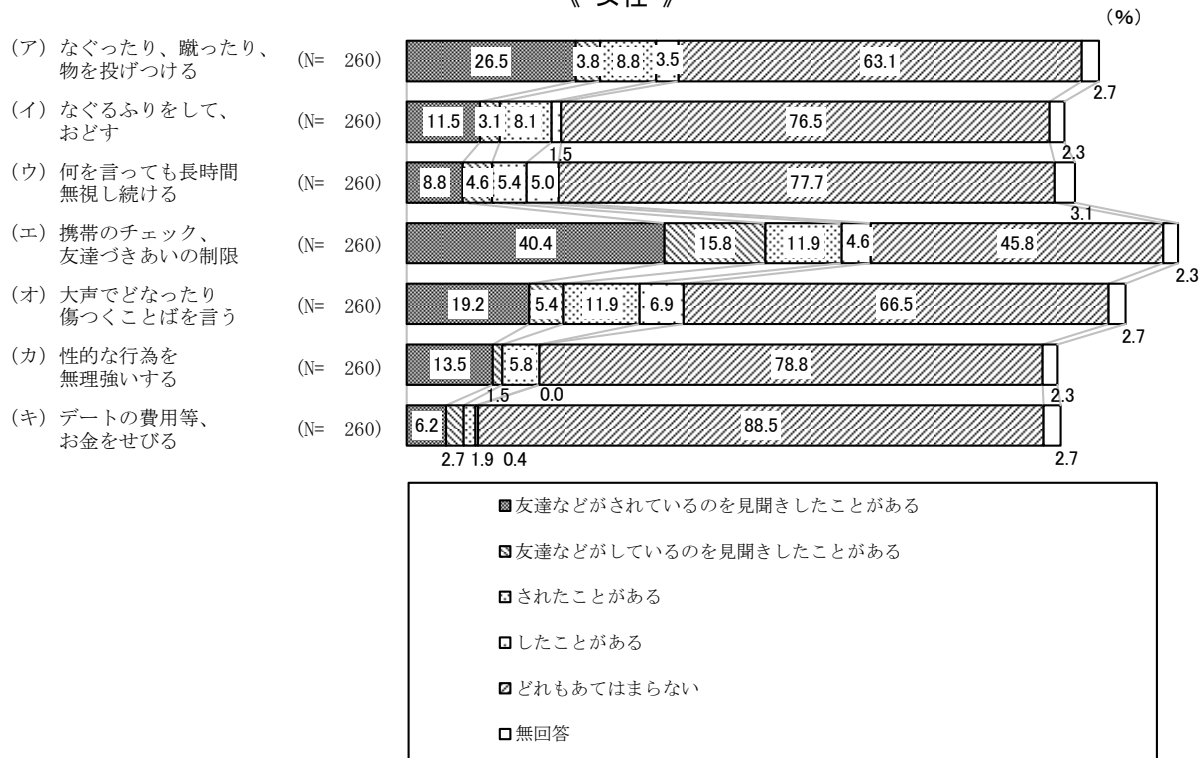
性別に見ると、《友達の被害経験》では、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつける」、「携帯のチェック、友達つきあいの制限」は、女性の方が男性を大きく上回り、《友達の加害経験》では、全ての項目で男性の方が女性を上回っている。

また、《被害経験》では、女性の方が「何を言っても長時間無視し続ける」「デートの費用等、お金をせびる」以外の項目で男性を上回っている。

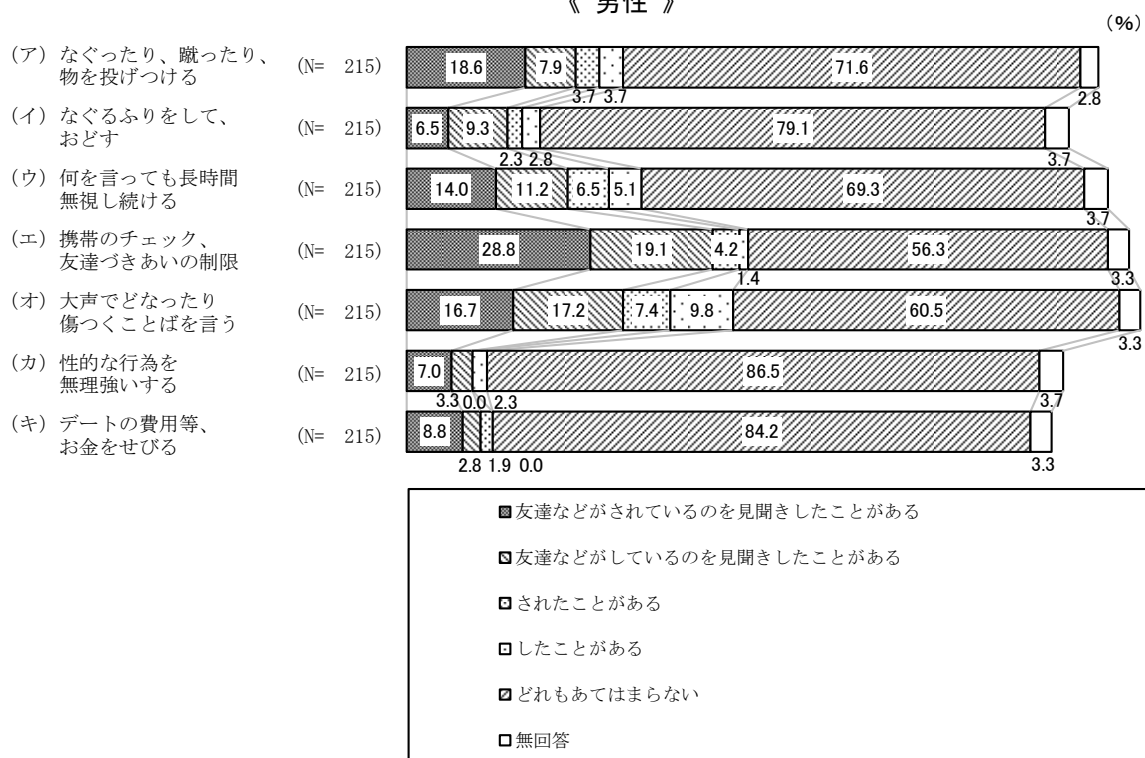
一方、《加害経験》では、男女別で大きな差は見られない。

デートDVの実態（性別）

《女性》



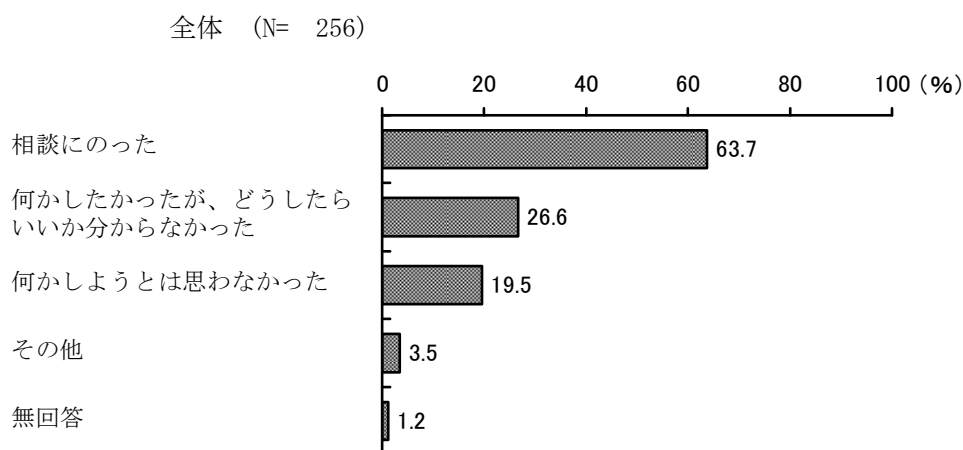
《男性》



## 2. 友達などのデートDVを見聞きした際の対応

(問7で、(ア)～(キ)のような態度や行動をひとつでも「友達などがされているのを見聞きしたことがある」または「友達などがしているのを見聞きしたことがある」と回答した方のみ)

問8 友達などがされたり、しているのを見聞きした際にとった行動について、あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。【○はいくつでも】



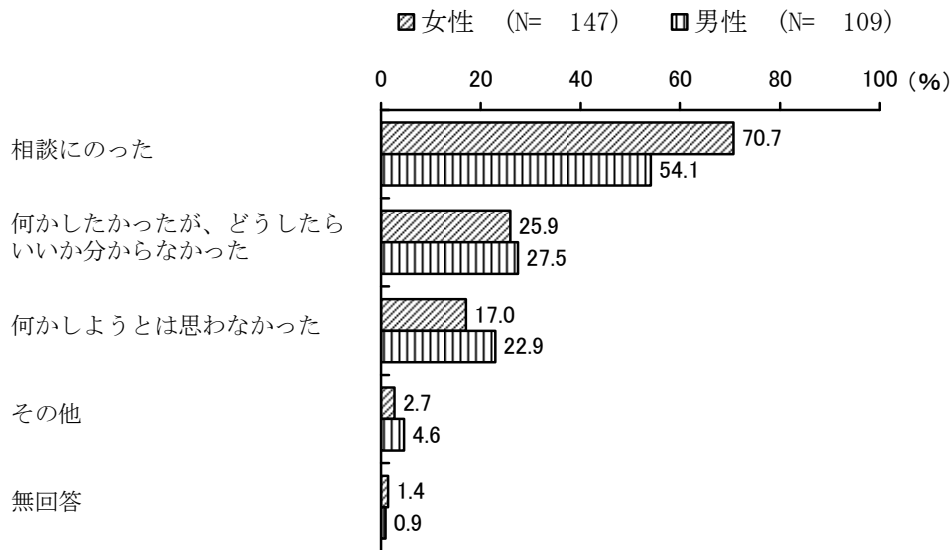
### ◎友達などのデートDVを見聞きした際、相談にのった人は約64%

デートDVを友達などがされたり、しているのを見聞きした際の行動をたずねたところ、「相談にのった」が63.7%と最も多く、以下、「何かしたかったが、どうしたらいいか分からなかった」(26.6%)、「何かしようとは思わなかった」(19.5%) などとなっている。

性別に見ると、「相談にのった」割合は、女性が70.7%で男性(54.1%)を上回っている。

デートDVの認知度別に見て、大きな違いはみられない。

友達などのデートDVを見聞きした際の対応（性別）



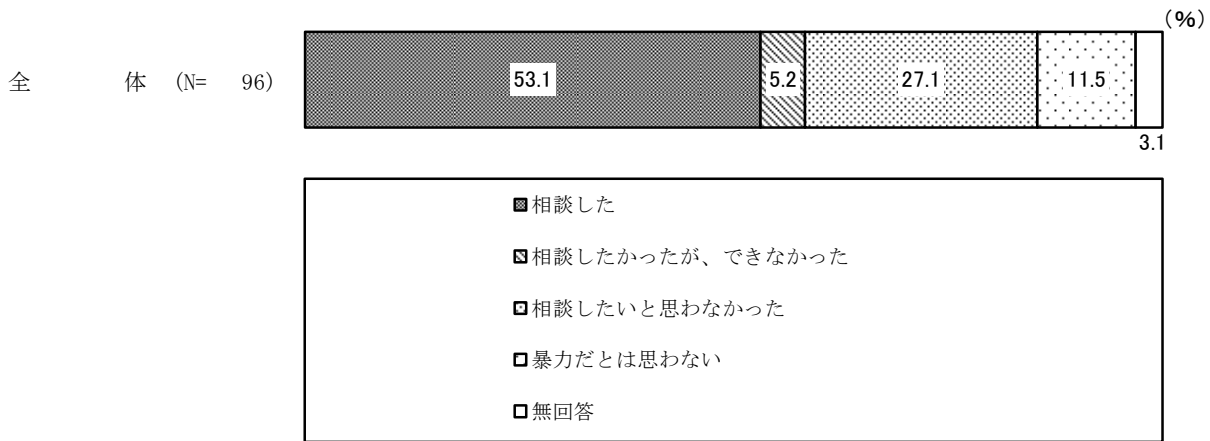
友達などのデートDVを見聞きした際の対応（デートDVの認知度別）

	調査数	相談にのった	何かしたかったが、 どうしたらいいか分からなかった	何かしようとは思わなかった	その他	無回答
全体	256	163	68	50	9	3
	100.0	63.7	26.6	19.5	3.5	1.2
言葉も意味も知っていた	88	61	19	14	3	2
	100.0	69.3	21.6	15.9	3.4	2.3
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	34	24	11	4	1	0
	100.0	70.6	32.4	11.8	2.9	0.0
言葉も意味も知らなかった	134	78	38	32	5	1
	100.0	58.2	28.4	23.9	3.7	0.7

### 3. デートDVを受けた際の相談状況

#### (1) 相談の有無

(問7で、(ア)～(キ)のような態度や行動を「されたことがある」と回答した方のみ)  
 問9(1) 恋人などから問7の(ア)～(キ)のような態度や行動をとられたとき、誰(どこ)に相談しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。【○は1つ】

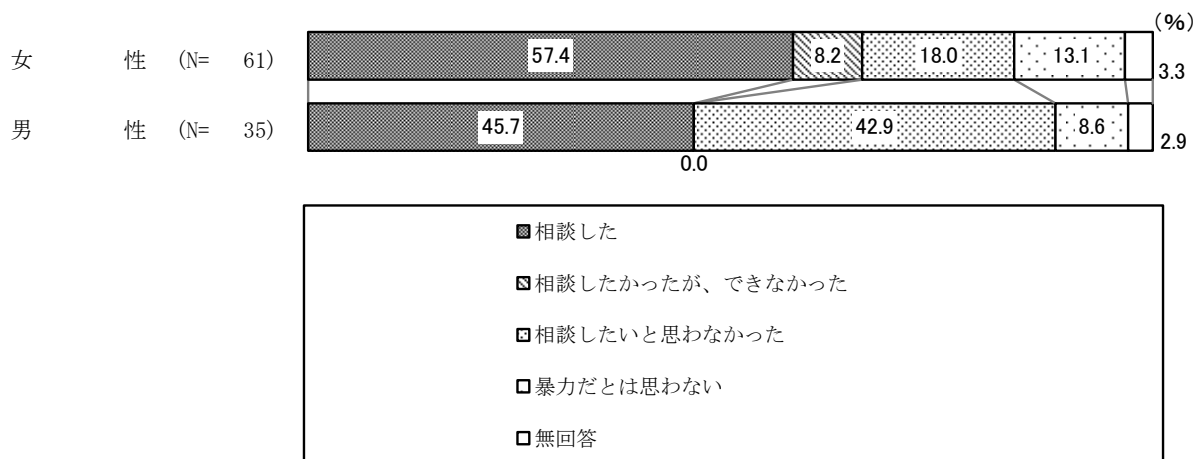


◎デートDVの被害を受けた際、「相談した」人は男性より女性が多く、「相談したいと思わなかった」人は女性より男性が多い

デートDVを受けたときの相談状況をたずねたところ、「相談した」が53.1%と最も多く、以下、「相談したいと思わなかった」(27.1%)、「暴力だとは思わない」(11.5%)、「相談したかったが、できなかった」(5.2%)となっている。

性別に見ると、「相談したいと思わなかった」では男性が42.9%と女性(18.0%)を大きく上回っている。一方、「相談した」では女性(57.4%)が男性(45.7%)を上回っている。

相談の有無 (性別)

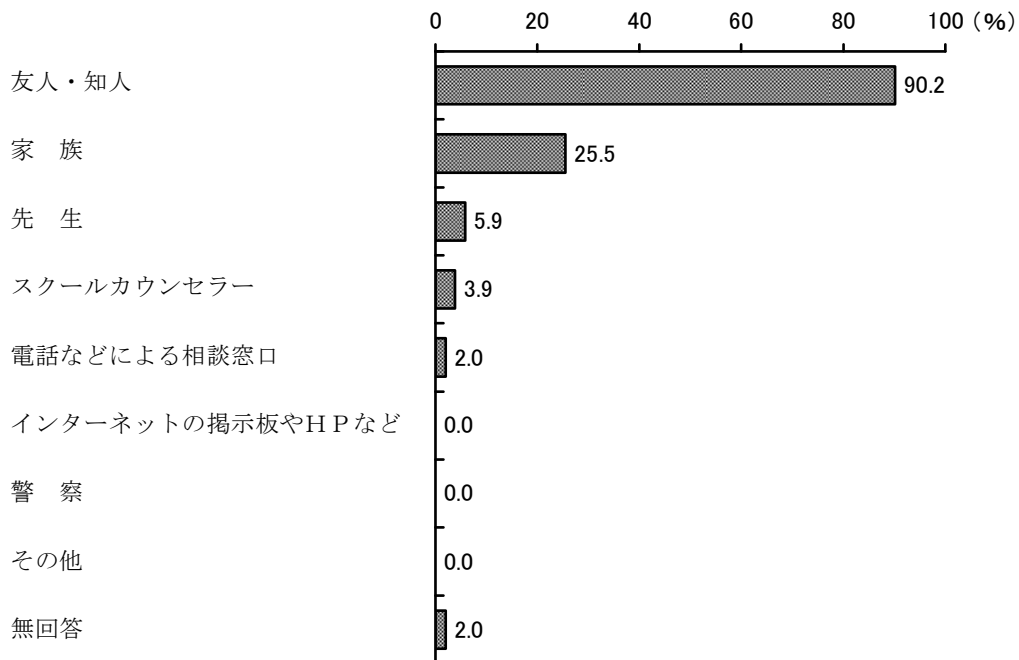


(2) 相談相手

(問9(1)で「相談した」と回答した方のみ)

問9(1) 相談相手 (〇はいくつでも)

全体 (N= 51)



◎デートDVの被害を受けた際、友人・知人に相談した人は約90%

デートDVを受けたときの相談相手をたずねたところ、「友人・知人」が90.2%を占めて最も多くなっており、以下、「家族」が25.5%、他の項目は1割未満と身近な人への相談が多くなっている。

性別に見ると、「友人・知人」は男女ともに約9割と大きな違いはない。

相談相手 (性別)

	調査数	友人・知人	家族	先生	スクールカウンセラー	電話などによる相談窓口	インターネットの掲示板やHPなどの	警察	その他	無回答
上段：件数 下段：%										
全体	51 100.0	46 90.2	13 25.5	3 5.9	2 3.9	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.0
女性	35 100.0	32 91.4	10 28.6	0 0.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9
男性	16 100.0	14 87.5	3 18.8	3 18.8	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

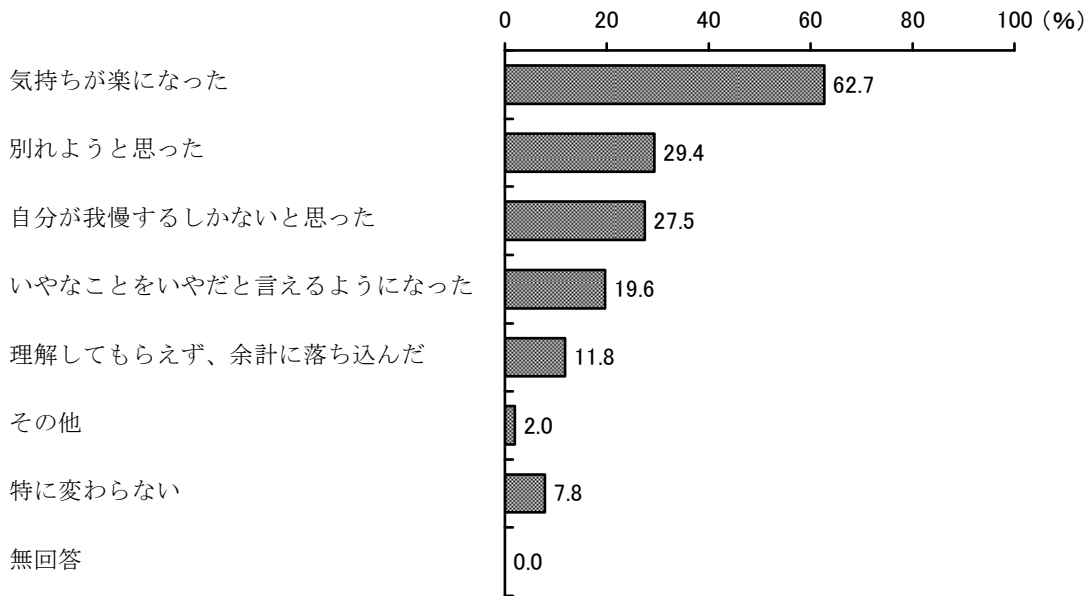
(3) 相談後の心情の変化

(問9(1)で「相談した」と回答した方のみ)

問9(2)相談してみてどうなりましたか。あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

【○はいくつでも】

全体 (N= 51)



◎相談により、「気持ちが楽になった」と感じた人が、約63%

デートDVを受けたときの相談後の心情の変化をたずねたところ、「気持ちが楽になった」が62.7%と最も多く、以下、「別れようと思った」(29.4%)、「自分が我慢するしかないと思った」(27.5%) などとなっている。

性別に見ると、「別れようと思った」、「自分が我慢するしかないと思った」、「いやなことをいやだと言えるようになった」は、女性が多くなっている。

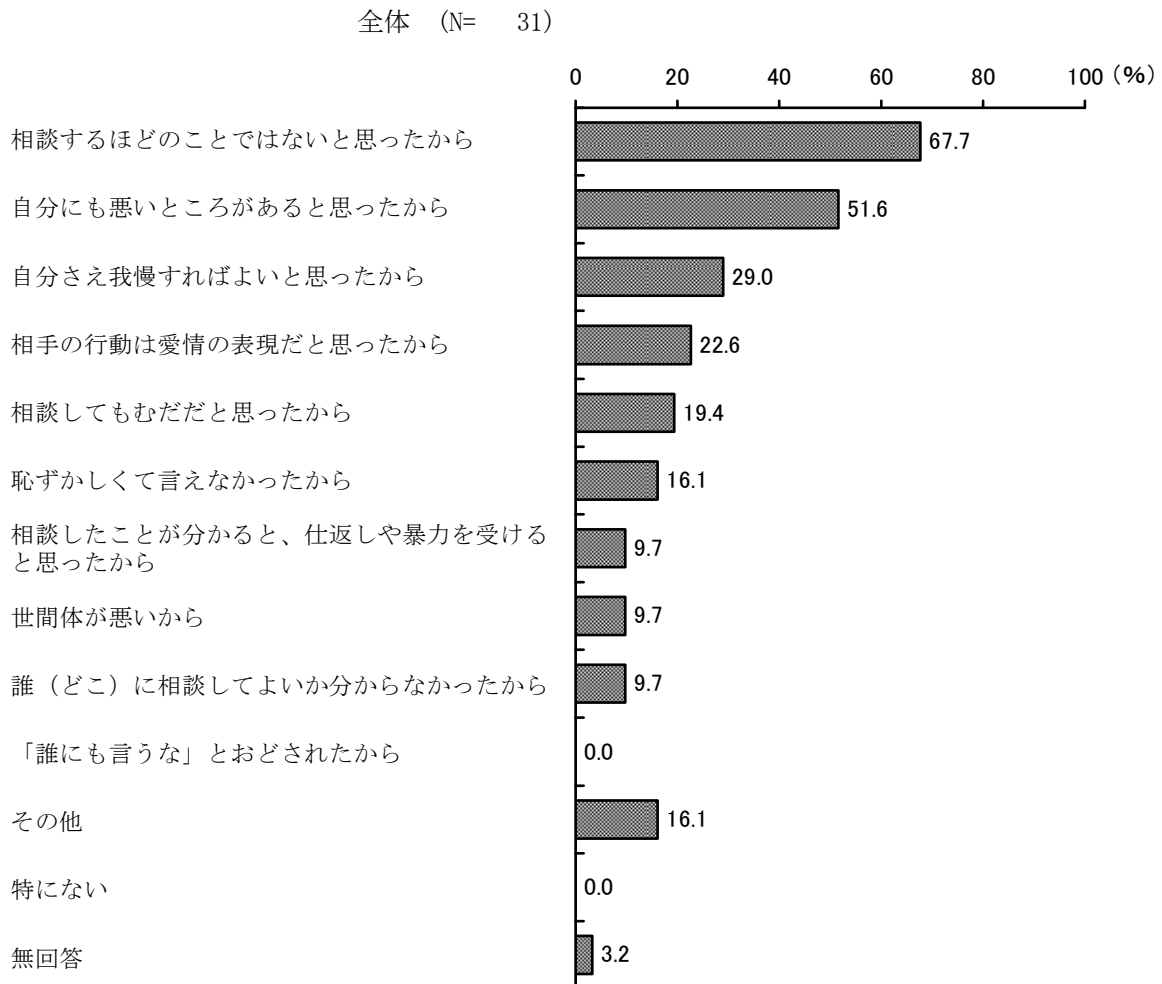
相談後の心情の変化 (性別)

	調査数	気持ちが楽になった	別れようと思った	自分が我慢するしかないと思った	いやなことをいやすべし	理解してもらえず、余計に落ち込んだ	その他	特に変わらない	無回答
全体	51	32	15	14	10	6	1	4	0
	100.0	62.7	29.4	27.5	19.6	11.8	2.0	7.8	0.0
女性	35	22	11	11	8	4	0	3	0
	100.0	62.9	31.4	31.4	22.9	11.4	0.0	8.6	0.0
男性	16	10	4	3	2	2	1	1	0
	100.0	62.5	25.0	18.8	12.5	12.5	6.3	6.3	0.0

#### (4) 相談しなかった理由

(問9(1)で「相談したかったが、できなかった」または「相談したいと思わなかった」と回答した方のみ)

問9(3) 誰(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。【○はいくつでも】



◎デートDVを受けて相談しなかった理由は、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、約93%

デートDVを受けたときに相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が67.7%と最も多く、以下、「自分にも悪いところがあったから」(51.6%)、「自分さえ我慢すればよいと思ったから」(29.0%)、「相手の行動は愛情の表現だと思ったから」(22.6%)、「相談してもむだだと思ったから」(19.4%) などとなっている。

性別に見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」が男性では93.3%となっており、女性(43.8%)を大きく上回っている。一方、他の項目では女性が男性を上回り、特に「自分さえ我慢すればよいと思ったから」、「恥ずかしくて言えなかったから」などの項目で大きく上回っている。



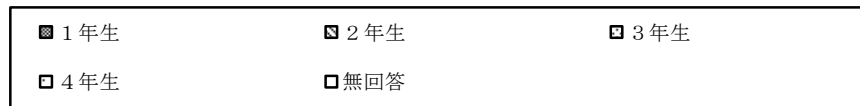
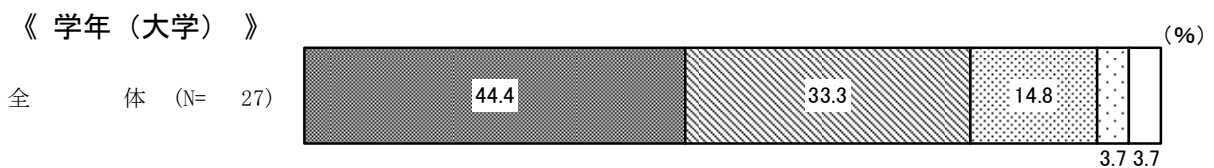
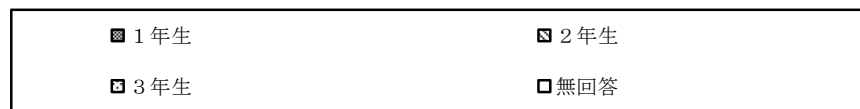
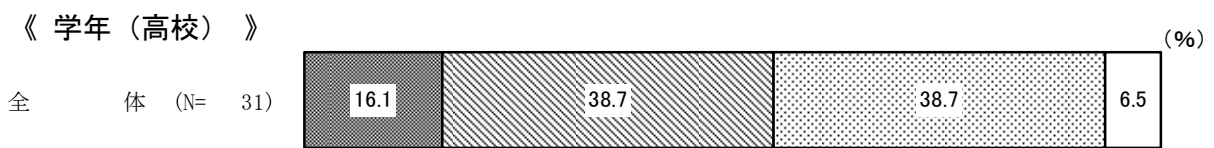
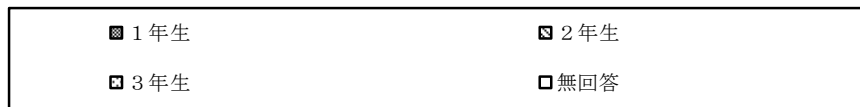
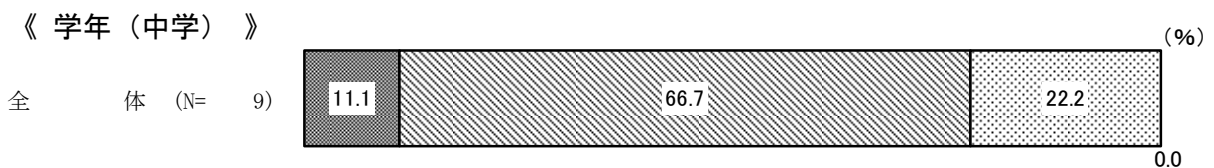
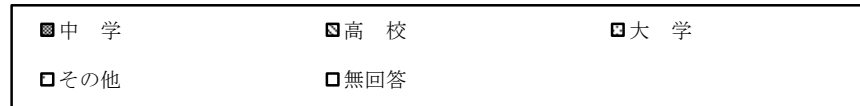
第2部 調査結果の概要

相談しなかった理由（性別）

上段：件数 下段：%	調査数	相談するほどのことではないと思つたから	自分にも悪いところがあると思つたから	自分さえ我慢すればよいと思つたから	相手の行動は愛情の表れだと思つたから	相談してもむだだと思つたから	恥ずかしくて言えなかつたから	けると思つたから	相談したことが分かる、と、仕返しや暴力を受ける	世間体が悪いから	誰（どこ）に相談してよいか分からなかつたから	「誰にも言うな」とおどされたから	その他	特にない	無回答
全 体	31 100.0	21 67.7	16 51.6	9 29.0	7 22.6	6 19.4	5 16.1	3 9.7	3 9.7	3 9.7	3 9.7	0 0.0	5 16.1	0 0.0	1 3.2
女 性	16 100.0	7 43.8	9 56.3	8 50.0	5 31.3	4 25.0	5 31.3	3 18.8	3 18.8	2 12.5	0 0.0	0 0.0	5 31.3	0 0.0	1 6.3
男 性	15 100.0	14 93.3	7 46.7	1 6.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

## 4. デートDVを初めて受けた時期

(問7で(ア)～(キ)のような態度や行動を「されたことがある」と回答した方のみ)  
 問9(4)問7の(ア)～(キ)のような態度や行動を、恋人などから初めてされたのはいつ頃  
 でしたか。あてはまる番号に○をつけ、学年を記入してください。【○は1つ】



## ◎デートDVを初めて受けた時期は、高校・大学で約60%

デートDVを初めて受けた時期をたずねたところ、「高校」が32.3%と最も多く、以下、「大学」(28.1%)、「中学」(9.4%)となっている。

学年は、中学では「2年生」が66.7%、高校では「2年生」、「3年生」がともに38.7%、大学では「1年生」が44.4%と多くなっている。

## 第2部 調査結果の概要

性別に見ると、「高校」では男性が40.0%と女性（27.9%）を上回り、「大学」、「その他」では女性が約3割と男性を上回っている。

デートDVを初めて受けた時期（性別）

上段：件数 下段：%	調査数	中学	高校	大学	その他	無回答
全体	96 100.0	9 9.4	31 32.3	27 28.1	22 22.9	7 7.3
女性	61 100.0	6 9.8	17 27.9	18 29.5	18 29.5	2 3.3
男性	35 100.0	3 8.6	14 40.0	9 25.7	4 11.4	5 14.3

### 《 学年（中学） 》

上段：件数 下段：%	調査数	1年生	2年生	3年生	無回答
全体	9 100.0	1 11.1	6 66.7	2 22.2	0 0.0
女性	6 100.0	0 0.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0
男性	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0

### 《 学年（高校） 》

上段：件数 下段：%	調査数	1年生	2年生	3年生	無回答
全体	31 100.0	5 16.1	12 38.7	12 38.7	2 6.5
女性	17 100.0	2 11.8	7 41.2	8 47.1	0 0.0
男性	14 100.0	3 21.4	5 35.7	4 28.6	2 14.3

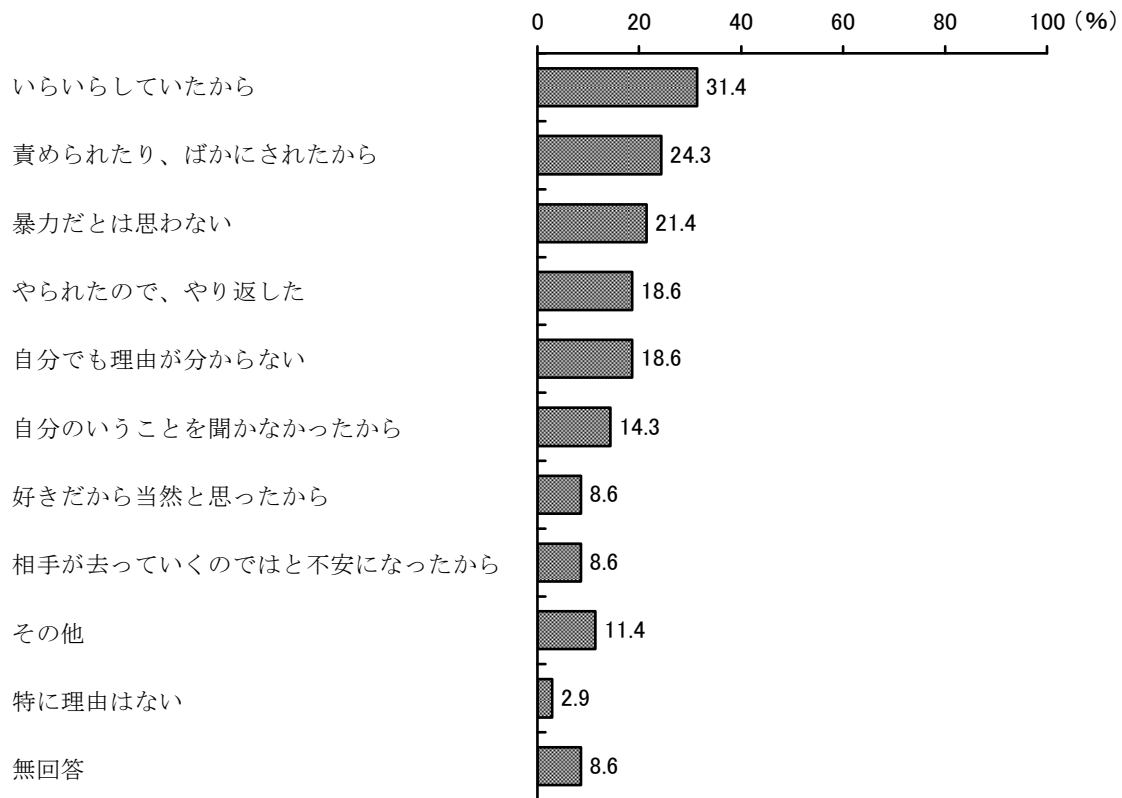
### 《 学年（大学） 》

上段：件数 下段：%	調査数	1年生	2年生	3年生	4年生	無回答
全体	27 100.0	12 44.4	9 33.3	4 14.8	1 3.7	1 3.7
女性	18 100.0	7 38.9	7 38.9	2 11.1	1 5.6	1 5.6
男性	9 100.0	5 55.6	2 22.2	2 22.2	0 0.0	0 0.0

## 5. デートDVを行った理由

(問7で(ア)～(キ)のような態度や行動を「したことがある」と回答した方のみ)  
 問10(1) 問7の(ア)～(キ)のような態度や行動を、恋人などにした理由について、あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。【○はいくつでも】

全体 (N= 70)



### ◎デートDVを行った理由では、「いらいらしていたから」が最も多い

恋人などにデートDVを行った理由をたずねたところ、「いらいらしていたから」が31.4%と最も多く、以下、「責められたり、ばかにされたから」(24.3%)、「暴力だとは思わない」(21.4%)、「やられたので、やり返した」、「自分でも理由が分からない」(ともに18.6%)などとなっている。

性別に見ると、すべての項目で女性が男性を上回っている。特に「自分のいうことを聞かなかったから」、「いらいらしていたから」、「責められたり、ばかにされたから」の項目で大きく上回っている。

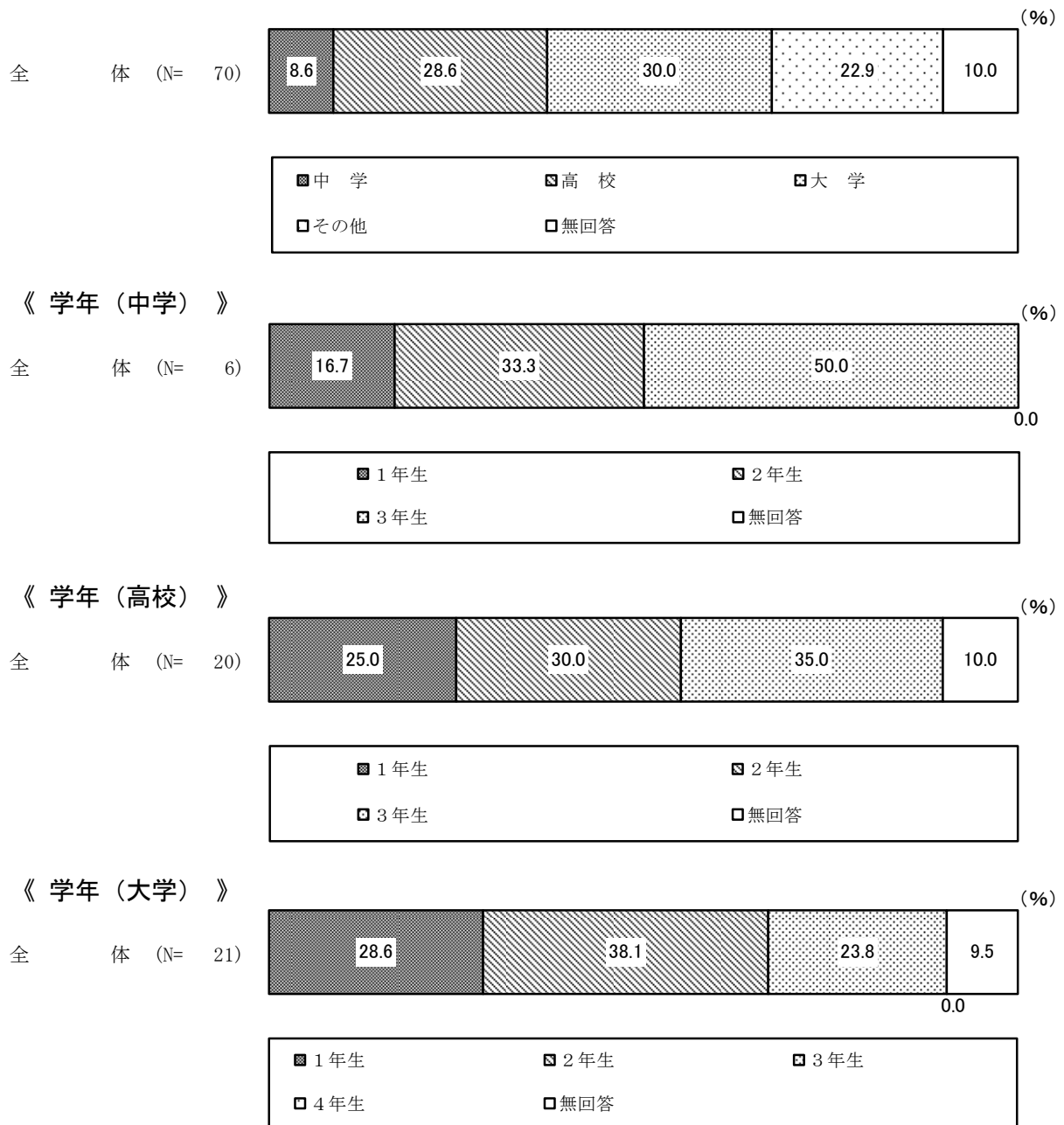
第2部 調査結果の概要

デートDVを行った理由（性別）

上段：件数 下段：%	調査数	かいらいらしていた	か責められたり、ば	い暴力だとは思わな	りや返されたので、や	か自分でも理由が分	聞かなかつたことを	思っただから当然と	好きだから不安に	の相手は去つていく	その他	特に理由はない	無回答
全 体	70 100.0	22 31.4	17 24.3	15 21.4	13 18.6	13 18.6	10 14.3	6 8.6	6 8.6	8 11.4	2 2.9	6 8.6	
女 性	34 100.0	16 47.1	13 38.2	8 23.5	8 23.5	7 20.6	8 23.5	3 8.8	4 11.8	4 11.8	0 0.0	2 5.9	
男 性	36 100.0	6 16.7	4 11.1	7 19.4	5 13.9	6 16.7	2 5.6	3 8.3	2 5.6	4 11.1	2 5.6	4 11.1	

## 6. デートDVを初めて行った時期

(問7で(ア)～(キ)のような態度や行動を「したことがある」と回答した方のみ)  
 問10(2) 問7の(ア)～(キ)のような態度や行動を、恋人などに初めてしたのはいつ頃でしたか。あてはまる番号に○をつけ、学年を記入してください。【○は1つ】



## ◎デートDVを初めて行った時期は、高校・大学で約59%

デートDVを初めてした時期をたずねたところ、「大学」が30.0%と最も多く、以下、「高校」(28.6%)、「中学」(8.6%)となっている。

学年は、中学では「3年生」が50.0%、高校では「3年生」が35.0%、「2年生」が30.0%、大学では「2年生」が38.1%と多くなっている。

第2部 調査結果の概要

性別に見ると、「高校」では男性が36.1%と女性（20.6%）を上回り、「中学」、「大学」、「その他」では女性が男性を上回っている。

デートDVを初めて行った時期（性別）

上段：件数 下段：%	調査数	中 学	高 校	大 学	そ の 他	無 回 答
全 体	70 100.0	6 8.6	20 28.6	21 30.0	16 22.9	7 10.0
女 性	34 100.0	4 11.8	7 20.6	12 35.3	8 23.5	3 8.8
男 性	36 100.0	2 5.6	13 36.1	9 25.0	8 22.2	4 11.1

《 学年（中学） 》

上段：件数 下段：%	調査数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	無 回 答
全 体	6 100.0	1 16.7	2 33.3	3 50.0	0 0.0
女 性	4 100.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0
男 性	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0

《 学年（高校） 》

上段：件数 下段：%	調査数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	無 回 答
全 体	20 100.0	5 25.0	6 30.0	7 35.0	2 10.0
女 性	7 100.0	1 14.3	3 42.9	3 42.9	0 0.0
男 性	13 100.0	4 30.8	3 23.1	4 30.8	2 15.4

《 学年（大学） 》

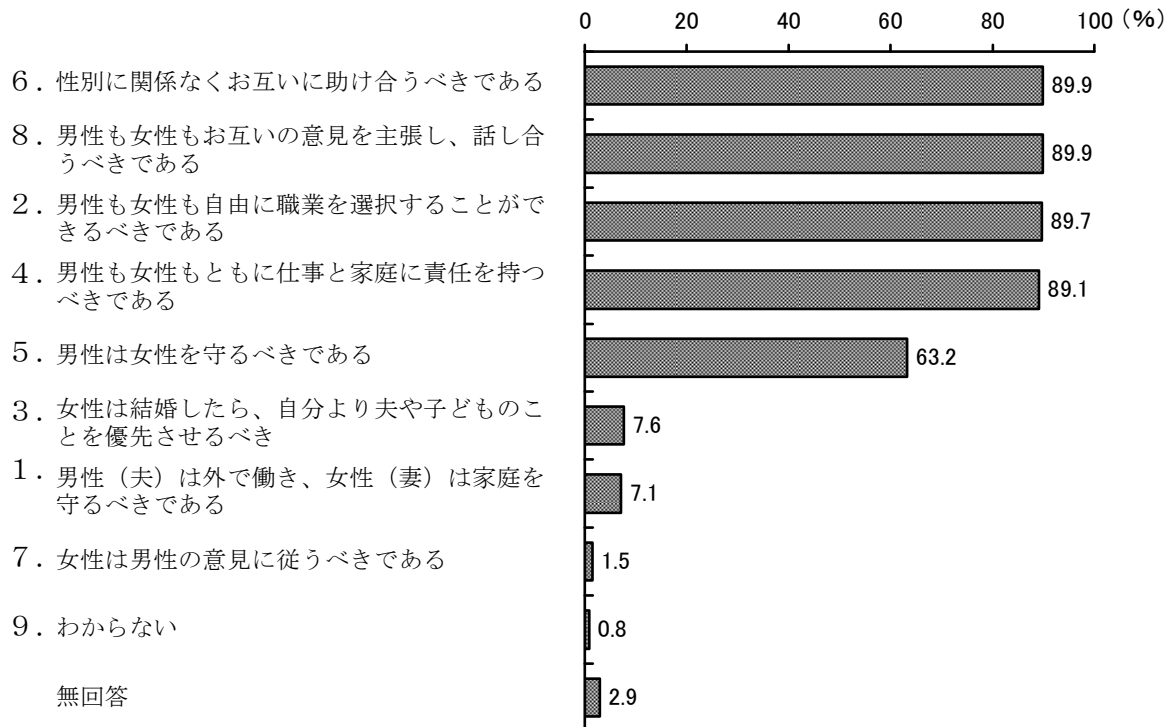
上段：件数 下段：%	調査数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	無 回 答
全 体	21 100.0	6 28.6	8 38.1	5 23.8	0 0.0	2 9.5
女 性	12 100.0	2 16.7	5 41.7	4 33.3	0 0.0	1 8.3
男 性	9 100.0	4 44.4	3 33.3	1 11.1	0 0.0	1 11.1

## VI デートDVの背景

### 1. 性別による固定的な役割分担意識

問11 あなたの考えに合うものに○をつけてください。【○はいくつでも】

全体 (N= 476)



#### ◎固定的な性別役割分担意識に否定的な人は、約9割

男女のあり方など性別役割に対する意識をたずねたところ、「性別に関係なくお互いに助け合うべきである」、「男性も女性もお互いの意見を主張し、話し合うべきである」、「男性も女性も自由に職業を選択することができるべきである」、「男性も女性もともに仕事と家庭に責任を持つべきである」が約9割と多くなっている。

また、この項目は、奇数項目(1. 3. 5. 7.)は「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担に肯定的な意識を持っていることを示し、反対に偶数項目(2. 4. 6. 8.)は否定的な意識を持っていることを示している。

上位項目は、いずれも性別による固定的な性別役割分担に否定的な意識を持っている項目となっている。

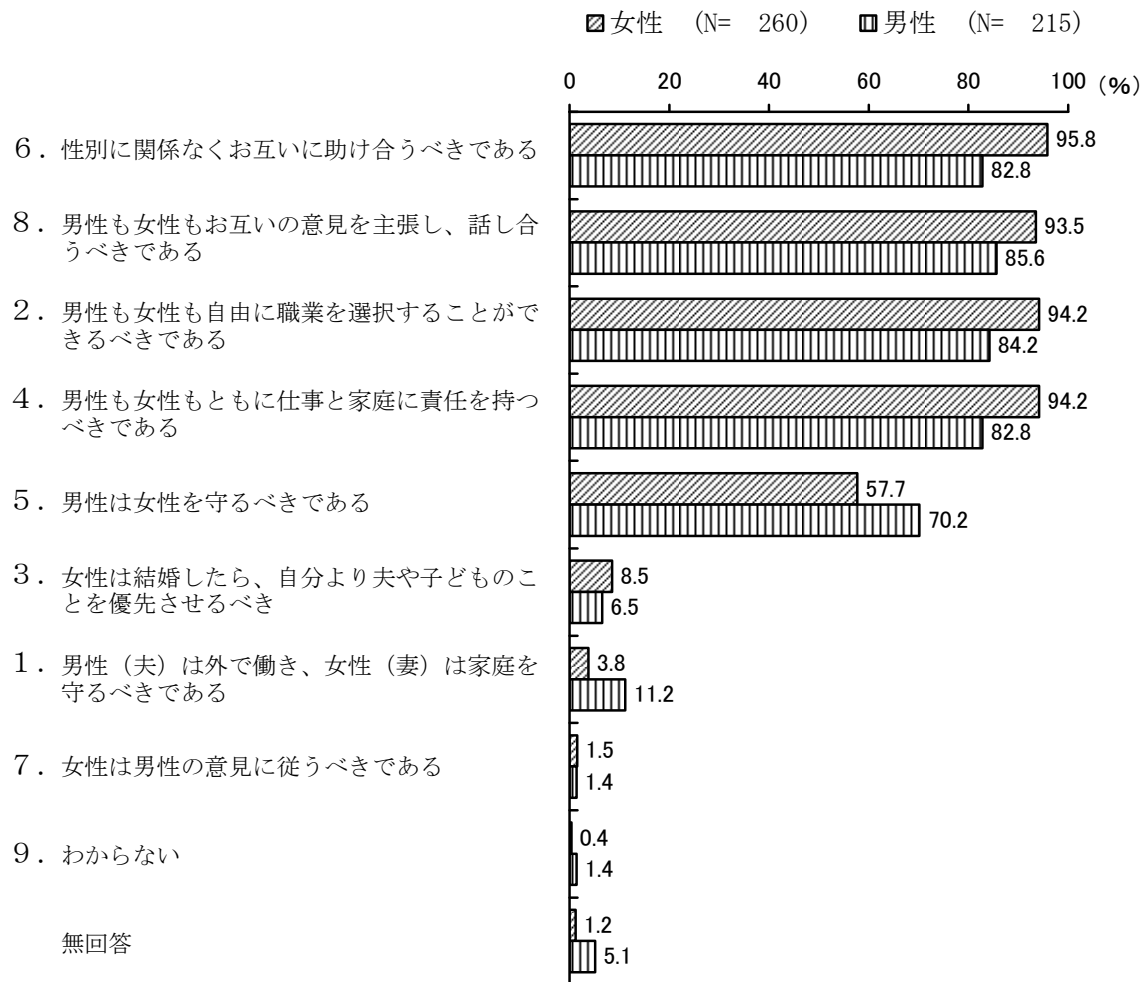


## 第2部 調査結果の概要

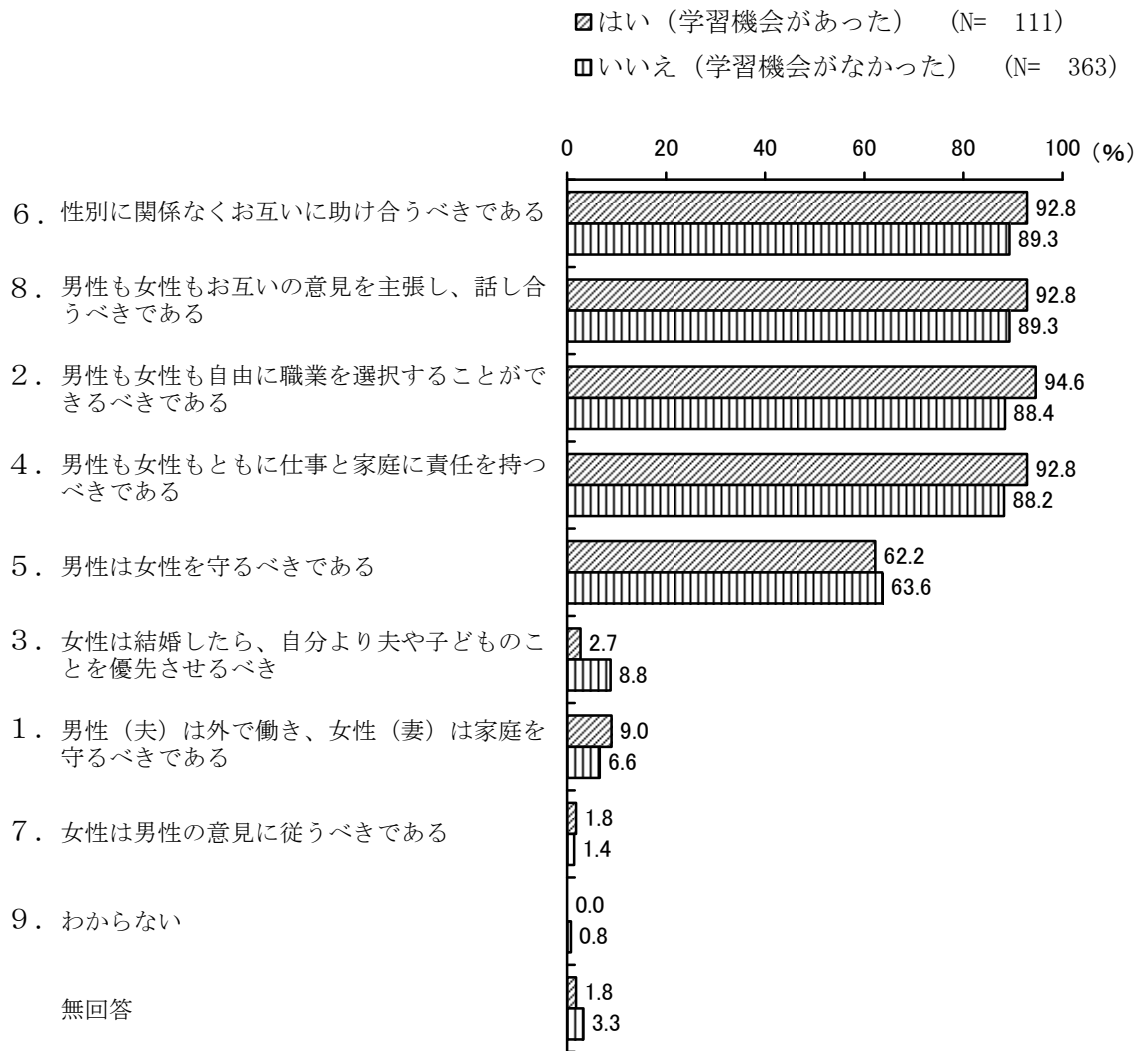
性別に見ると、固定的な性別役割分担に否定的な意識を持つことを示す偶数項目すべてで、女性が男性を上回っている。

デートDVに関する学習機会別に見ると、学習機会がなかった人は「女性は結婚したら、自分より夫や子どものことを優先させるべき」が約6ポイント上回り、全体結果をも上回っている。

性別による固定的な役割分担意識（性別）

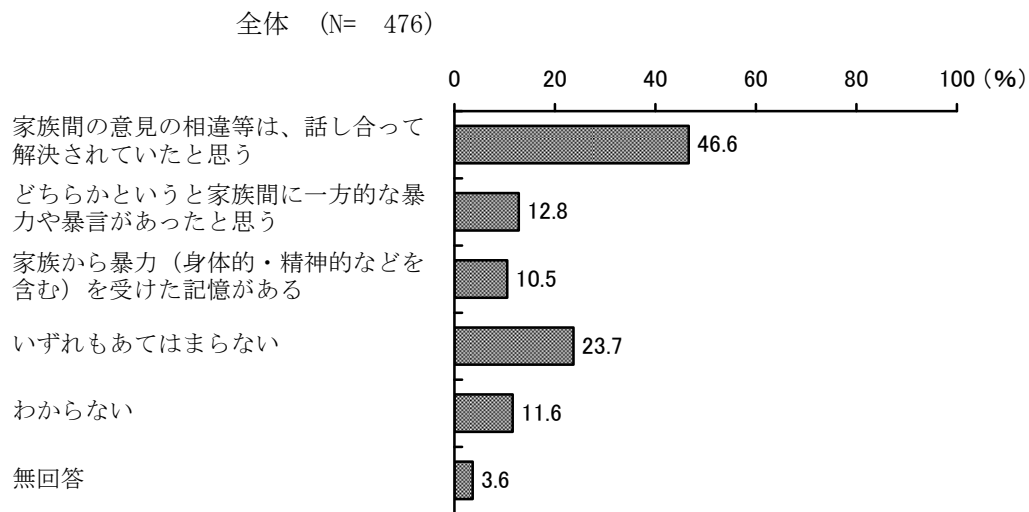


性別による固定的な役割分担意識（デートDVに関する学習機会別）



## 2. 家庭環境

問12 あなたの親や祖父母などのご家族の関係に近いものはどれですか。【〇はいくつでも】



### ◎家族間の意見の相違等は話し合いで解決が約47%

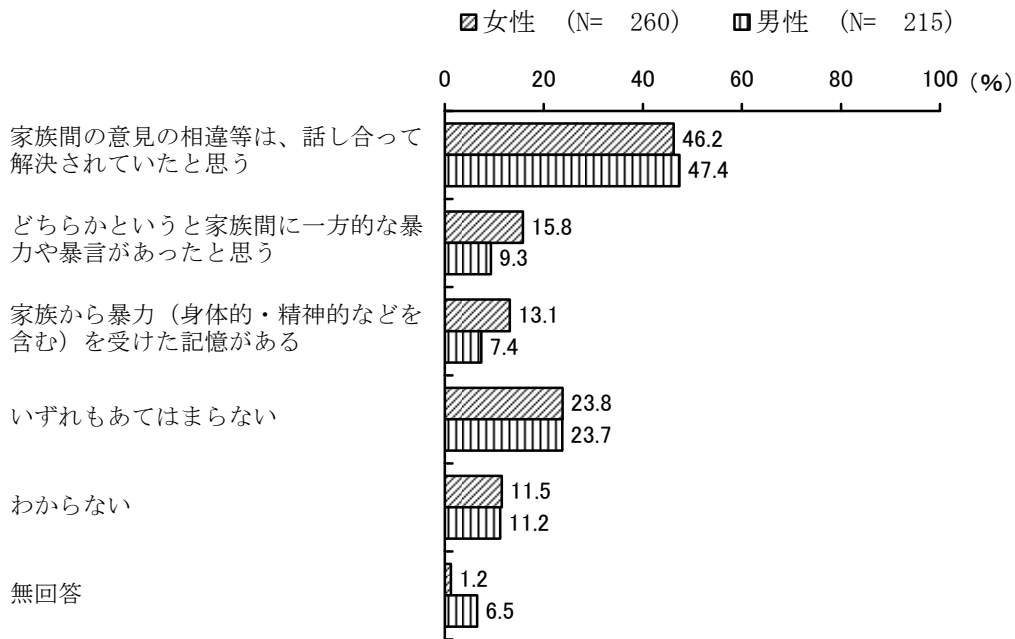
親や祖父母などの家族の関係に近いものをたずねたところ、「家族間の意見の相違等は、話し合っ解決されていたと思う」が46.6%と最も多く、以下、「どちらかという家族間に一方的な暴力や暴言があったと思う」(12.8%)、「家族から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」(10.5%)となっている。

一方、「いずれもあてはまらない」は23.7%である。

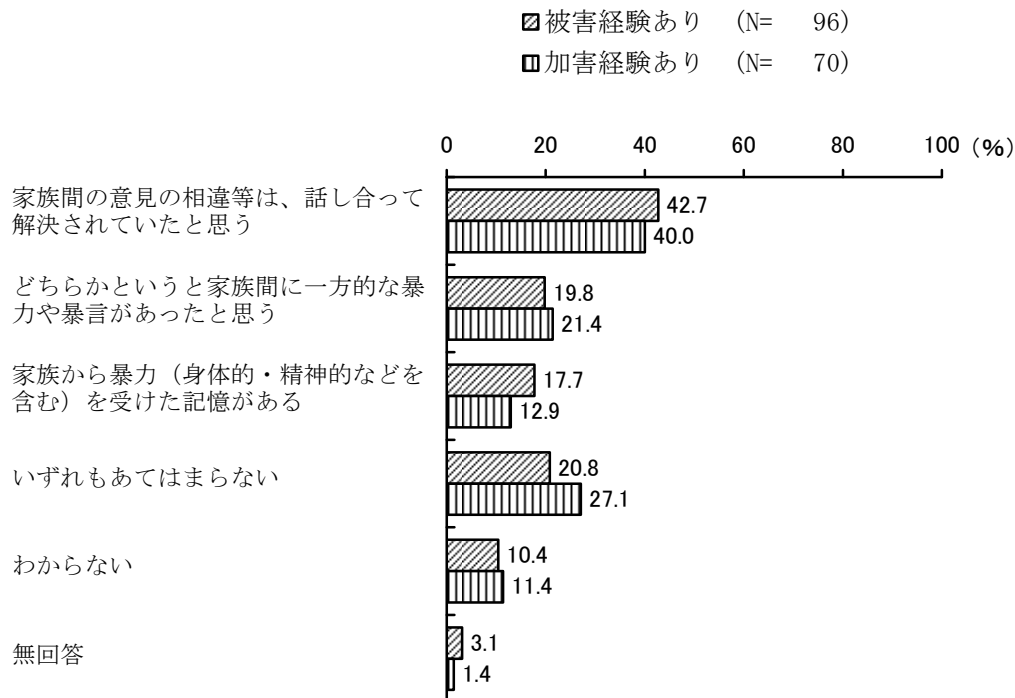
性別に見て、大きな違いはみられない。

被害・加害経験別に見ると、被害経験があった人は、「家族から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」が17.7%とそうでない場合を上回っている。

家庭環境（性別）



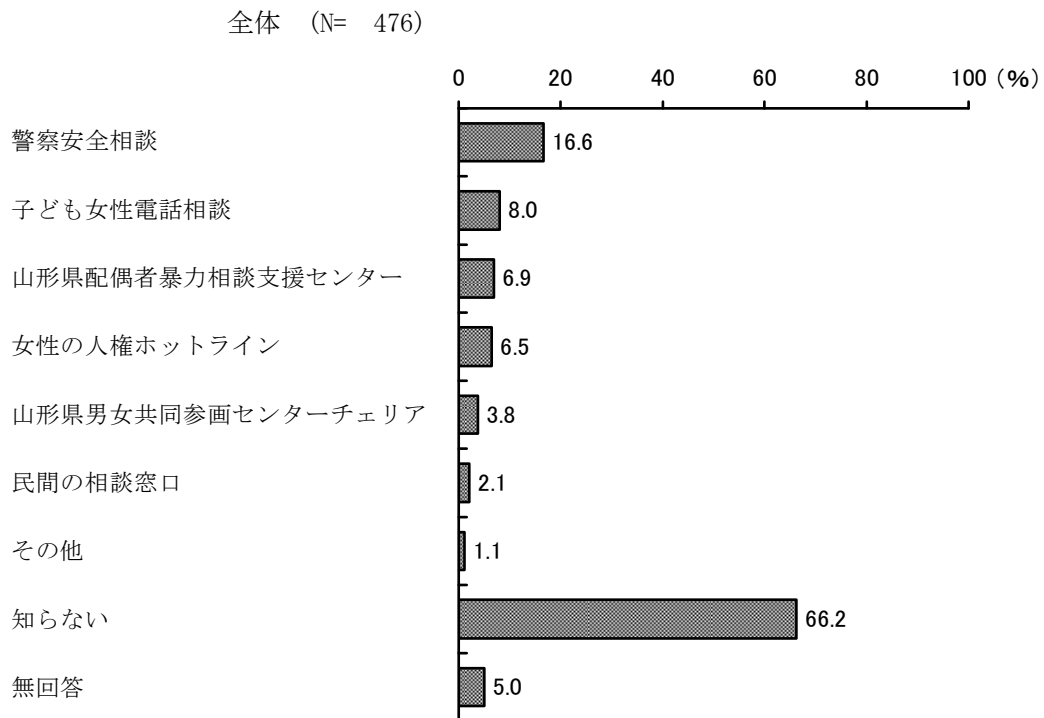
家庭環境（被害・加害経験別）



## Ⅶ デートDV防止のために

### 1. 相談窓口の認知度

問13 あなたは、『DV』に関する次の相談窓口を知っていますか。【〇はいくつでも】



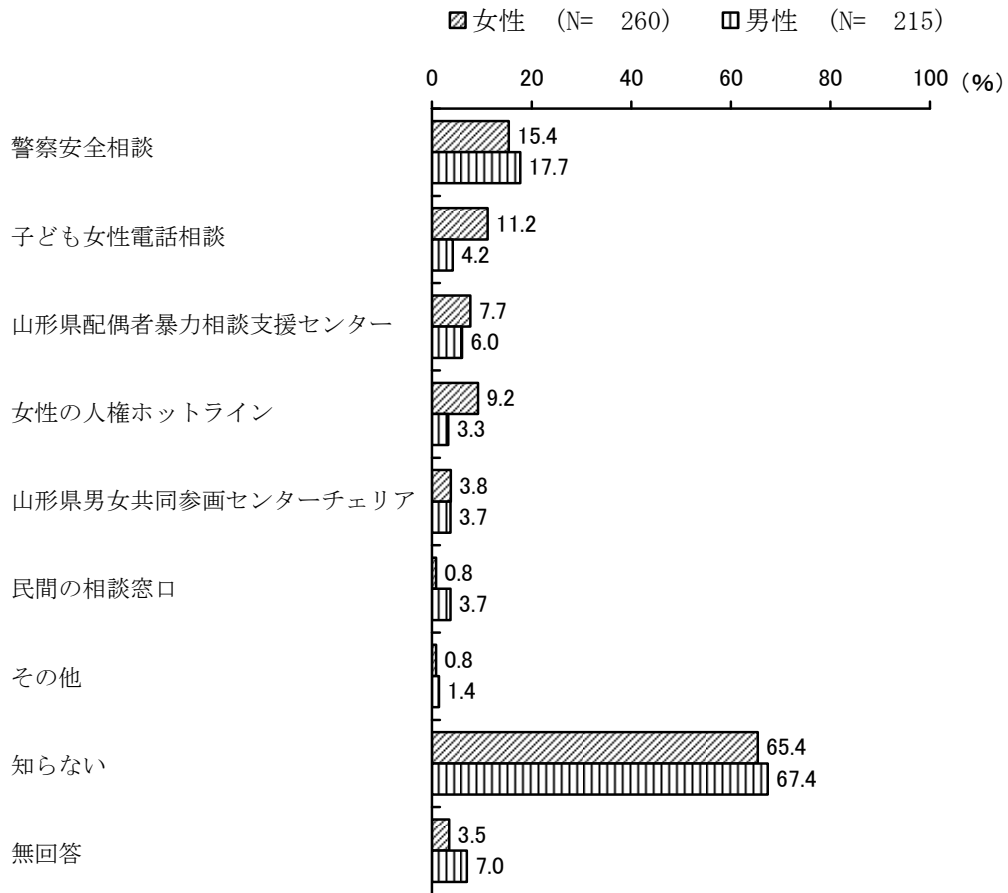
#### ◎相談窓口の認知度では、知らない人が約66%

『DV』に関する相談窓口の認知についてたずねたところ、「警察安全相談」を知っている人が16.6%と最も多く、以下、「子ども女性電話相談」(8.0%)、「山形県配偶者暴力相談支援センター」(6.9%)、「女性の人権ホットライン」(6.5%) などとなっている。

一方、「知らない」は66.2%である。

性別に見て、大きな違いはみられない。

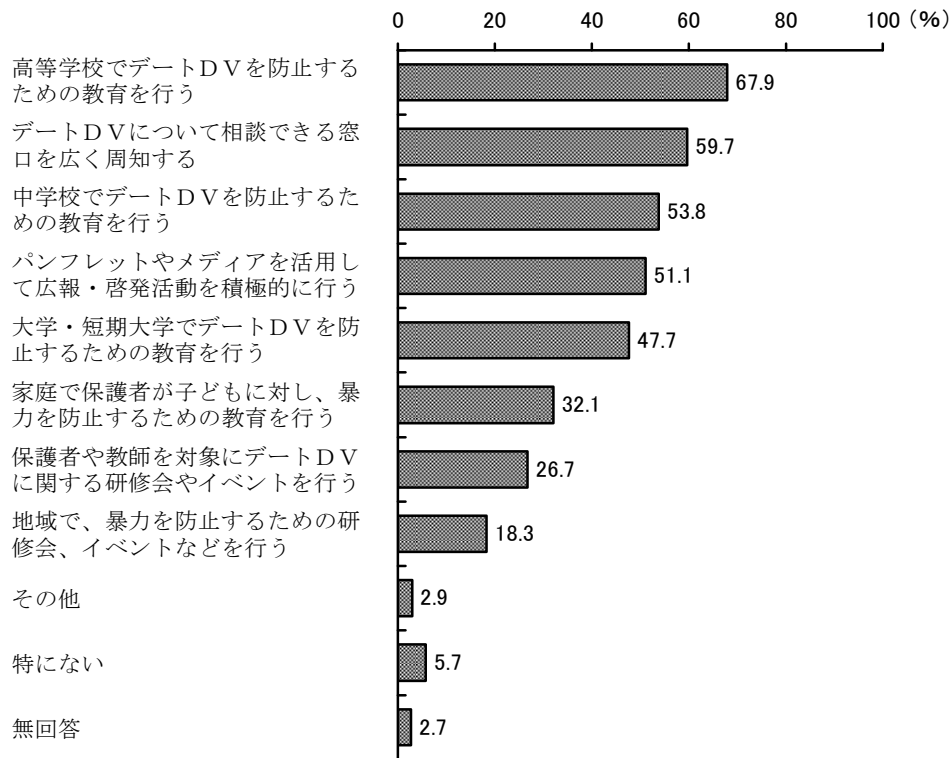
相談窓口の認知度（性別）



## 2. デートDV防止のために必要な取組み

問 14 問5のような行為は『デートDV』にあたるといわれていますが、あなたは『デートDV』をなくすため、どのような取組みが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

全体 (N= 476)



◎デートDVをなくすために必要なことは、「高等学校でデートDVを防止するための教育を行う」、「デートDVについて相談できる窓口を広く周知する」

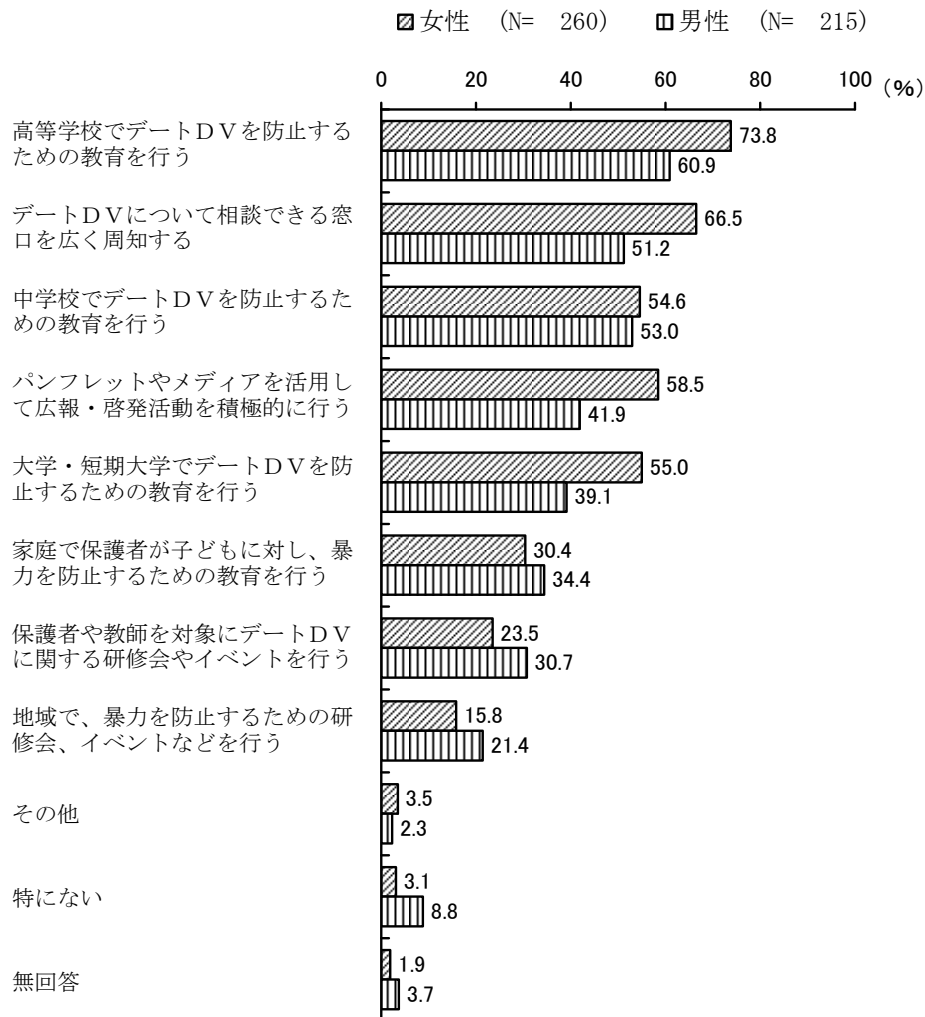
デートDVをなくすために必要な取組みをたずねたところ、「高等学校でデートDVを防止するための教育を行う」が67.9%と最も多く、以下、「デートDVについて相談できる窓口を広く周知する」(59.7%)、「中学校でデートDVを防止するための教育を行う」(53.8%)、「パンフレットやメディアを活用して広報・啓発活動を積極的に行う」(51.1%)、「大学・短期大学でデートDVを防止するための教育を行う」(47.7%) などとなっている。

性別に見ると、女性は「高等学校でデートDVを防止するための教育を行う」、「デートDVについて相談できる窓口を広く周知する」、「パンフレットやメディアを活用して広報・啓発活動を積極的に行う」、「大学・短期大学でデートDVを防止するための教育を行う」などが男性を上回っている。

一方、男性は「保護者や教師を対象にデートDVに関する研修会やイベントを行う」、「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」などが女性を上回っている。

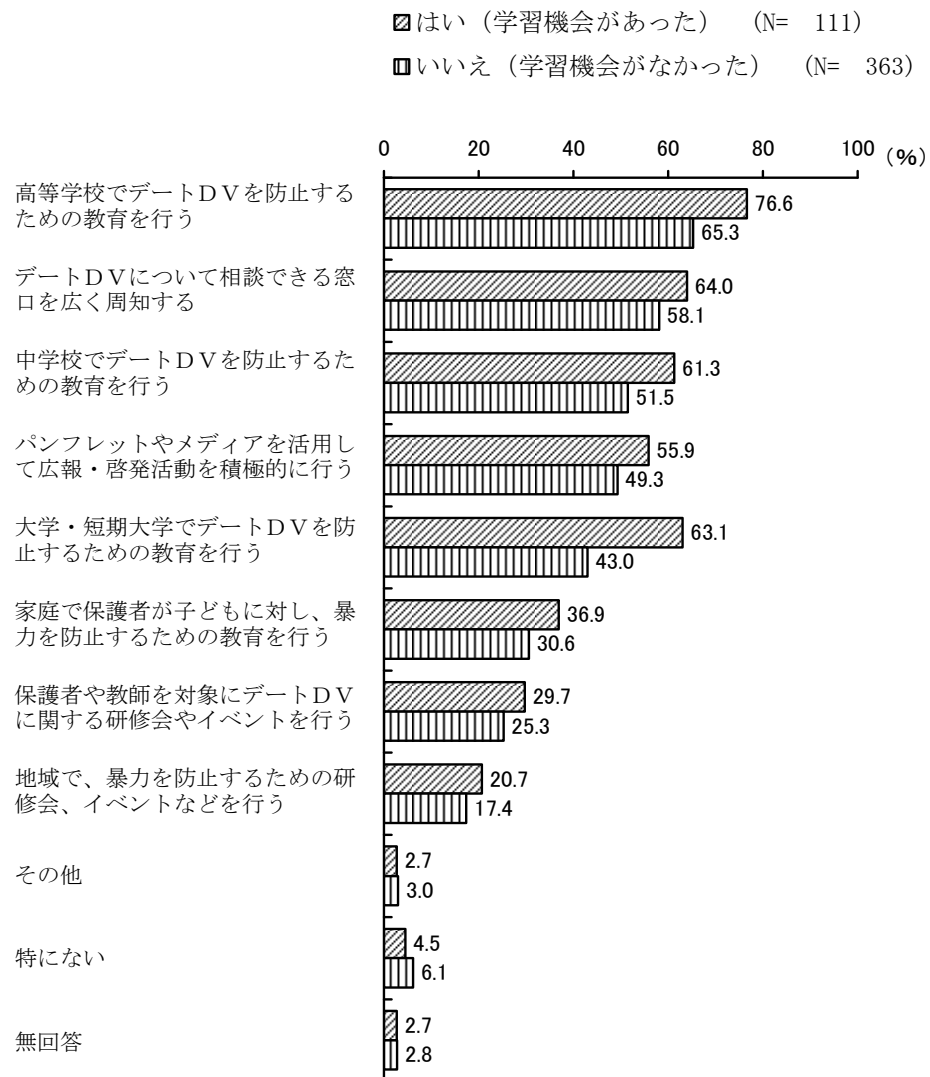
デートDVに関する学習機会別に見ると、全ての取組みで「はい（学習機会があった）」が「いいえ（学習機会がなかった）」を上回っており、デートDV防止の取組みの必要性をより感じている。とりわけ、「高等学校でデートDVを防止するための教育を行う」、「中学校でデートDVを防止するための教育を行う」、「大学・短期大学でデートDVを防止するための教育を行う」が大きく上回っており、学習機会があった人は特に学校での教育が必要だと考えている。

デートDV防止のために必要な取組み（性別）





デートDV防止のために必要な取組み（デートDVに関する学習機会別）



## Ⅷ 自由記述

アンケートの最後に、自由に意見していただける欄を設けたところ、意見数は135件であった。以下は意見内容を分類し、多い順に示した結果である。

分類名	集計
01 認知度・理解とその向上について	27
02 教育について	24
03 問題提起と改善策の提案	17
04 経験による意見	11
05 相談窓口について	8
06 改善への願いについて	8
07 周囲のサポート体制について	7
08 理解し難い問題	6
09 広報活動について	6
10 家庭環境について	6
11 暴力の基準の難しさについて	5
12 精神的な暴力について	4
13 このアンケートについて	1
14 その他	5
総計	135

## 1. 認知度・理解とその向上について (27件)

- ◆ このアンケートで初めてデートDVという言葉を知った。もっと周知すべきだと思う。
- ◆ 今までDVという言葉も意味も知っていたが、この封筒で初めて「デートDV」を知った。身近に見たり聞いたりしたことが無かったので深く考えたことが無かった。この調査に協力できて、良い経験になった。きっと自分みたいに「デートDV」を知らない人は、もっとたくさんいると思うので、今よりも色々な人、大勢の人に知ってもらえるといい。実際に被害にあっている人も、少しでも多くの人のがちが楽になるように、良い方向に変われるようになっていったら嬉しい。
- ◆ DVはその場の状況とお互いの気持ちで定義を決めるのが難しいと思う。する方もDVのつもりではないかもしれないし、特に、されている方もされている意識がないのがほとんどだと思います。「愛があるから」とか言っている友達とかもいるぐらいでしたし。「DV」というものがはっきりしない部分が多い中、なくすというのも大変なのだろうと思う。とりあえずは「DV」についての知識、どうすればいいかということをもっと広めるべきだと思います。
- ◆ 例え自分がデートDVやDVを受けていたとしても、それを認識できる知識がないと、助けを求めることも、相手に対して間違いであることを主張することもできないと思います。自分は被害を受けたこと、それは誰かに主張しても良いことだと知ることが、私たちにはまだ足りないと思います。
- ◆ DVを受けている人は、DVをDVだと認識していないのが問題だと思う。他人が下手に介入してしまうと、かえって大ごとになりかねないのもネックの一つ。
- ◆ 「DV」という言葉は知っていても「デートDV」については聞いたこともなかった。若者の恋愛が多様化している現在、当事者だけでなく、その周りの人々も恋愛から発展した事件の実態などについて、深く理解しておく必要がある。私もデートDVを経験するかもしれない立場として、このような言葉を身近に感じながら、体も心も穏やかにある恋愛をしていくよう心がけたい。
- ◆ 愛情がゆえの束縛も、受けている側が「DVである」、「苦しい」と感じたら、それはデートDVであると思うし、自分でこの状況はDVであると気づいてない人もたくさんいます。デートDVという言葉もあまり周知されていないと思うので、これからはまず「デートDV」という言葉の普及と現状把握が必要だと思います。
- ◆ DVを受ける方の中には、「自分が悪い」、「愛情の裏返し」と思う人もいます。まずは、この考えを変えさせることが必要となる。なぜなら、上記の考えのままだと、自ら相談することがなく、他者の話を受け入れるのも難しくなってしまうためだ。また、電話や窓口での相談には抵抗のある人もいるので、各家を相談機関の職員が訪問し、宣伝して認知度を高めること。毎年の健康診断で不自然な怪我がないか注意してもらおうなど、コストはかかるが、一人ひとりに働きかけるような活動が求められると思う。
- ◆ 暴力をふるうことだけがデートDVだと思っていたが、こんなにも範囲が広いとは思わなかった。今後も気をつけて生活していきたい。

- ◆ 「デートDV」という言葉の認知度がまだまだ低いと思う。友人から相談を受けた際、明らかにデートDVであったのだが、友人は愛情表現の一つの形として甘んじて束縛を受けていた。そうなってしまうと、私の説得では解決せず、おそらく今でも続いているだろう。デートDVの根底に上手く愛情表現ができないという問題があるならば、それも含めて広報を行い、改善をするべきものであることを認知してもらうべきである。多少なりとも気持ちがあるゆえ一緒にいるのだろうから、問題を乗り越えて、多くのカップルに幸せになってほしいものである。
- ◆ 正直DVについて深く考えたことはありませんでした。高校でちょっとやっただけなので、もっと身近な形で知る機会があれば良いのではないかなと思いました。
- ◆ 私は「DV」や「デートDV」はどちらもあまり体験したことも知人から相談を受けたこともないのでわかりませんが、きっと暴力を受ける側は（男女関係なく）自分のことを責めていると思います。（自分がいけないから〇〇される、など）まずは、「暴力」ということの意味合いも人それぞれ違うので、「DV」や「デートDV」というものは何なのかをきちんと説明し、相談もできずに困っている、悩んでいる人たちを助けてあげてほしいと思います。  
暴力の延長が殺人という事件もあるようなので、こんなことしか言えず、すみません。少しでも悩んでいる人たちが救われたらいいと思っています。
- ◆ 「DV」はよく聞くし、ドラマでもそれをテーマにしていたから知っていたけど、「デートDV」は初めて聞きました。暴力をふるうのは男性というイメージが強いですが、今は女性でも恋人に暴力をふるっているというのを聞いたことがあります。私はそんな経験はないし、友人からもそんな話は聞かないので、全然身近に感じませんでした。今回のこのアンケートに協力させていただいて、思ったよりも近くにあるものなのだなと感じました。「デートDV」はもっと広めるべきだと思いました。
- ◆ 「デートDV」というのを初めて聞きました。DVという言葉が聞かれるようになって、身近には感じるようになりました。
- ◆ デートDVは、愛情と嫉妬の区別が付きにくい、とても難しいものだなと感じました。デートDVを受けている女性も相手のことが好きなら我慢してしまうこともあると思います。または、デートDVという言葉を知らないかもしれません。やはりもっとデートDVについて国や自治体で周知させてほしいです。そうすれば、デートDVの被害にあっている人を周りから助けることができるのではないかと考えます。
- ◆ デートDVは常に起こりうることだと思う。被害者も加害者もただの暴力だと思わずに、「デートDVなんじゃないか」と気付いたり、考えられるようにしていく必要があると思う。
- ◆ 周りにデートDVで困っている方がいる時に、手を差し伸べることができるようにしたいと思う。また、自分がデートDVにもっと知識や関心を持たなければならないと思った。
- ◆ デートDVという言葉自体、世間に知られていないと思う。ましてや親の世代では、「うちの子どもがそんなことをしている、受けている」などと予想もしていないと思うので、いくつか事例があるのであれば、それを広くメディアなどで周知した方が良いのではないと思う。実際、デートDVを受けている人は少なからずいると思うので、最悪の事態が起きる前に相談の場を開いた方が良いと思う。

## 第2部 調査結果の概要

- ◆ 私は、学生時代に講義などで聞いたことがあったため知っていたが、一般的にはあまり知られていないように思う。（知られていないために、実際に被害にあっている方も気付いていないということもあると思う。）
- ◆ よく知らなかったため、いいきっかけになりました。ちゃんと調べてみようと思いました。
- ◆ 言葉の意味・定義をもっと広く認知させるべきだと思う。誤った認識を植え付けてしまえば、性差別にも繋がるので、それは避けなければならない。
- ◆ デートDVにあっても、暴力の後の一時的な優しさや相手を想う気持ちから、DVであることを認識していなかったり、我慢してしまう人たちが多数いるということを知ったことがあるので、そういった人たちが正しい知識を持って、被害を受けた場合に対処できるように、DVに関する知識や相談窓口などについて、積極的に情報を広めていくことがとても大切だと思う。
- ◆ 「DV」はよく耳にしたが、「デートDV」は初めて耳にした。私の身の周りでは、そのようなことをする人もされる人もいないと思っているのだが、テレビや雑誌などでデートDVを受けた人の体験談をたまに見る。それらを見ると、普段は優しい相手なのに突然暴力的になる、かと思えばすぐに謝ってまた優しくしてくる。結局、いつもは優しいし好きだから別れられない、とのことだが、私にはその感覚がよくわからない。デートDVをしないように呼びかけることも大切だが、そのような性格を持つパートナー（人間）の危険性とか、問題点を呼びかけて、「普段優しいからきっと平気」などと甘えないようにすることも必要だと思う。（一度好きになってしまったら、難しいとは思いますが）
- ◆ デートDVに関して何も知らなかったのですが、今回のアンケートを通じてはじめて知りました。「草食系男子」や「イケダン」といった言葉をよく耳にするようになった一方で、恋人間での暴力が増加傾向にあるというのは驚きでした。しかし、重大な事件にまで発展した暴力は自分の周りで生じていなくとも、少々やりすぎではないかと思うようなことはよく耳にします。そういった重大な事件に発展する可能性はゼロではないのだと心に留めて、今後の付き合いに生かしていきたいと思いました。
- ◆ DVをされる方にも、私はこの人を変えなきゃと言って、離れられない人が多い傾向にあると思う。それでその人から離れられない。そういう人が何人かいた。だから、される人にも相談していい・悪いことだ・我慢するなという意識を徹底すべき。自分は基本的にはDVは病気だと思っているので、本人を更生されるのは難しいと思う。でもそこであきらめずに、国とか地方自治体が呼び掛けか、勉強会を開くなどして、草の根運動を頑張ってほしい。
- ◆ このような言葉を初めて耳にしたので正直驚いた。これからは自分自身も気をつけなければと思った。

- ◆ 私自身「DV」という言葉自体、テレビで聞いて知っているくらいで知識など何もありませんが、暴力なんてふるう人が悪いに決まっているわけだし、そういうことをする人自体人として間違っていると思う。でも、「暴力」ってちゃんとしたラインがあるわけでもなくて、捉える人によつてすごく個人差があると思う。だから取り締まるにしてもすごく難しいと思う。でも、今も被害者はいるわけで、そういう人たちを見過ごすわけにもいかないし、だったら身近な人がその人を助けてあげたり、かくまってあげたり、どうしても手に負えなかったら警察にとか、いろいろ手はあると思う。それより、私としては「なんでDVするような人に育つ？」とか「どういう環境にいればそういう人になってしまう？」とか、DVする人についてわかっていることがあるんだったらそういうのを知りたい。

## 2. 教育について (24件)

- ◆ DVのようなことが普通だと思っている高齢者が多い。高度経済成長の世代の人たちの影響を受けた若い世代がDVを起こしてしまうのだと思う。幼い頃に家庭での環境が大きな要因になっていると感じる。新しい考え方を周知させ、若い世代だけでなく、高齢者にも教育すべき。幼い頃から、高度経済成長の考え方でなく、成熟社会の考え方を教えるべき。30代・40代の新しい考え方を持った人たちが社会を考える中心になってほしい。
- ◆ 高校の時に同じ中学校の女の子（クラスも別で顔と名前がわかる程度の親しさ）がちょっと暴力をふるう彼氏と付き合っただけで別れを繰り返しているという話を聞いたことがありました。今思うと「デートDV」だったと思います。私が中学生の頃には「デートDV」なんて言葉は聞いたことが無かったので、早いうちからの教育は必要だと思います。
- ◆ デートDVは大学での研究のテーマの1つであったが、定義が中途半端なだけに広く認知はされても、対処が難しそうである。しかし、中高生にとっては興味深いものだと思うので、授業などで1回でも取り上げれば、意識はしてくれると思う。
- ◆ 初めて知った言葉だった。DV全般をなくすためにも、あらゆるメディアを通し、なくしていけたらいいと思った。時に、学生の頃はDVについての知識も浅く、自分がされていることにも気づいていない人もいると思うから、学校を通して授業項目に入れるべきだと思う。
- ◆ 小学校での道徳の時間をもっと増やすべきだと思う。あとは育った環境なので。
- ◆ 今は中学校で恋人がいるという人が多いと思うので、もっと教育に力を入れた方がいいと思う。私は暴力をふるう男性は大嫌いだが、そんな人にお金を使ったり、一緒にいる女性の考え方がわからない。そういう女性の人の考え方、意見を聞いてみないと答えようがない点もあると思う。
- ◆ 相手に直接物が当たってなくても、男性が物に当たっていたり、すぐキレるのはとても怖く感じます。メールチェックされ、友達付き合いを制限されている友達もいたので、デートDVは身近に感じます。また、それをデートDVと知らない人も多くいると思います。デートDVをしてしまう人は、何か家庭環境に問題があることも多いと思います。学生だけでなく、保護者や教師にも研修会などを行ったり、相談窓口も広く周知してほしいです。

## 第2部 調査結果の概要

- ◆ デートDVという言葉を知りました。私が中学・高校の時、教えられた記憶がありません。きっと、私以外にも知らない人がたくさんいるんじゃないでしょうか。学校でデートDVを教えることで、直接的にデートDVがなくなるかどうかはわかりませんが、知ることによって逃れることができる人は増えると思います。
- ◆ 「デートDV」はそのことに関して知っている人が少ないと思う。このアンケートが送られてくるまで、私はその言葉を知らなかった。中・高校生の時に、その知識を教えるべきだと思う。大人でも知らない人は多いと思うので、新聞の地域欄に情報を掲載してほしい。
- ◆ 私個人的には「デートDV」なんてありえないと感じているし、友達に聞いてみてもやっている人たちはいない。でも、県や国の全体を見てみると被害を受けている人は少なくないテレビでも取り上げられている。被害者の中には、仕打ちが怖くて相談できない人、「DV」を受けていても「好きだから」、「愛されているから」、「私が悪い」など、被害意識を持っていない人がたくさんいると思う。学生のうちに「DV」という意識をつけさせることが必要。友達など知り合いに相談できない人もいると思うので、「献血ルーム」のように、気軽に行けるような施設づくり、また、環境・雰囲気づくりも必要。
- ◆ 自分ではそんな気がなくても相手によってひどく傷つく場合があることは体験的に知っています。しかし、正しい教育として防止について（暴力の）学ぶ機会がなければ、イライラしたり、何となくという理由でDVが起こってしまうと思う。「自分は大丈夫」と思い込みがありやすいことだと思うので、半強制的にDV防止を学ぶ場を作るべきだと感じた。
- ◆ 最近の若い人たちはデートDVについての認識があまりなっていないと思います。だから、いろいろなニュースや事件などがなくなるのだと思います。山形県は、安全なイメージが他県のイメージと比べるとありますが、小さい頃からの指導をしていくといいと思います。
- ◆ 「無視されたから暴力をふるった」などと理由付けをして、デートDVにあたる行為をしてしまったという話を良く耳にするが、正確には「無視されたから“自分から離れて行ってしまうのではないかという不安に襲われて”デートDV行為をした」というのが理由であると思うから、もっと自分を見つめる自己分析を冷静にさせるような訓練を中・高校生時あたりから行うべきだと思う。
- ◆ 防止のための教育を早い時期・年代に実施して、いけないことであることを知らせ（学ばせ）防止について啓発活動を進めていく必要があると思います。
- ◆ デートDVという言葉の意味を知らない人が結構たくさんいると思うので、学校の授業でも触れた方が多くの人に知ってもらえると思う。何がデートDVかをわかりやすく示してもらえたら知る機会が増えるし、当てはまっているかもチェックできていいと思った。
- ◆ デートDVに関しては、今回のアンケートで初めて知りました。これから、中学生・高校生にデートDVに関する教育をしたとしても、その時にデートDVを受けている（実際に）子以外は関心もないし頭の中にも残りづらいと思います。でも、実際にデートDVを受けている女性がいるので、それは大きなことだし、ちゃんと考えていかないといけないと思いました。アンケートをして、デートDVについて知ったので、これから友人・私自身がデートDVにあった時、少し知識があるのでよかった。このようなアンケートもデートDVの実態を広めるのに有効な活動だと思います。

- ◆ 言葉は聞いたことがなかった。デートDVを防止する教育というよりも、その人の人間性+モラルの問題であると思うので、小・中（・高）の道德教育が重要であると思う。そして、被害者が相談できる環境が大事であると思うので、デートDVという言葉と実態を広く知らせること、そして、相談窓口を例えば大学の中に置くなどすることも有効だと思います。
- ◆ 大学の講義ではじめてデートDVのことを知った。正直、DVは家庭をもってから起こるようなことだと思っていたので、半同棲などになりやすい大学生になる前に、デートDVなどの知識を身につけているといいと思う。知識がないと自分がDVを受けている自覚を持ちにくいと思う。
- ◆ DVを受けていても、他の人に見えない、知らない状況が多いと思う。一方的に暴力をふるわれていることが多いと思うので、また、付き合う前は相手を知らない、逆を言うとDVは付き合い合わないとわからないため、スムーズに別れる方法も教育したら良いと思う。
- ◆ 本来であれば、私生活の中で学ぶべきことだと思う。教育に持ち込もうという話が出るのが疑問。もしDVが異性からあるとしたら、普通に考えればDVをする人には次第にパートナーができにくくなるだろうから、教育によるよりは、相談できる窓口を周知して、DVを実際に受けている人が別れられるようにサポートする方が長期的には効果があるんじゃないだろうか。デートDVについて、じゃれあいの範囲の中、ある程度の行為に止まっていることもあるだろうから、判断が難しいようにも感じた。
- ◆ もっと気軽に相談できるようにするべきだと思う。本当にDVをしている人や、されている人が講習会などに参加されるように学校だけではなく、幅広い場所で確実に多くの人が講習会を聞けるように何か工夫すべき。すぐ罰を受けるようにすべき。
- ◆ 暴力や束縛をされても、「それだけ自分のことを愛してくれている」、「自分が悪いから仕方がない」と、勘違いしている女性が多すぎるように感じる。それは、愛などではなく、人として誤った行為であるということを知ってもらうためにも、男女交際が始まる中学校の時期に、保健体育などで、デートDVについて教育すべきであると思う。また、メディアの効果は一番大きいのではないかと思う。デートDVの相談窓口について、今の若者には広く認知されていないと思うので、テレビCMなどでデートDVの内容、実態、最後に相談窓口と連絡先を載せて放送したらいいのではないかと思う。
- ◆ 家庭で親などから暴力を受けていたと言う友人が、いわゆる「デートDV」をしてしまっていたり、されているように感じます。また、彼らはそれをDVだとは認識していないのです。中・高などの教育でDVの認識を高めていくことが必要なのではと思います。
- ◆ 高校での「デートDV」防止は必要です。男子高も。



### 3. 問題提起と改善策の提案（17件）

- ◆ 男女間だけでなく上下間（先輩や後輩など）で考えても良いと思う。実際の暴力だけでなく、無視や雰囲気などで精神的な暴力もあると思う。大人だけでなく子どもの中でもそういったのはあるので、そういったのを含め考えてもらいたいです。
- ◆ 自分がよければ良い、相手を思おうとしない気持ちがデートDVへ繋がっているのではないかと感じた。自分だけの意見を貫くのではなく、お互いがどれだけ相手の意見をも尊重することができるかが、デートDVの解消へ向かうことになるのではないだろうか。
- ◆ 誰でも被害者・加害者になる可能性があるものだから他人事として考えない。あきらかにDVでも本人が気付いていない場合もあるのではないかと。
- ◆ 恋人の時点でDVが始まった瞬間にその人は人としてダメだと思う。「デートDVに対する取り組み」ではなく、「暴力自体をなくす取り組み」が必要だと思われる。教育に必要なのは人間として正しいこと、悪いことを教えることでデートDVに関しては、当人同士の話し合いと解決が必要。
- ◆ 問14のような取り組みをしてもデートDVはなくならないと思う。デートDVが起こるのは、その人の性格であるので、その人がデートDVを行っていると感じなければならぬ。そのための指導も必要だと思う。デートDVのない世の中になるように私も頑張りますので、この調査をもとに暴力のない社会にしてください。よろしくお願いします。
- ◆ デートDVの被害者のケアはもちろん必要だが、加害者のケアも必要だと思う。
- ◆ 自己中心的な物の考え方がDVとなる。相手を良く観察できる力がない。
- ◆ 友達にデートDVを受けている子がいるが、相談を受けたり、見ていると、される側にも原因があると思われる場面もあるように思われる。DVをする側だけを防止するだけではなく、される側もしっかりした心の強さを持つことが大切なのではないかと考える。
- ◆ 子どもが変わらないで、大人が変わればよくなる。
- ◆ 自分も経験があることなので、他人事ではないと思う。受けている側もそうだが、DVをしてしまう方のケアも非常に重要だと思う。DVは間違った愛情表現であるので、なぜDVをしてしまうのか、家庭などを含めた調査をするべきである。そのデータからDVをしてしまうに至る原因をなくすべきだ。
- ◆ 今は中学校とかより大学生などのDVが多いと思う。
- ◆ お互いに何でも話せる関係を築くことが大切だと思う。DVをしている側も精神的に悩んでいることがあったり、トラウマがあったりしてやっちゃっていることもあり、DVをした後で泣きながら反省したりすることもあるので、「DVを受けたら別れる」というのでは解決にならない。DVを受けている人を守ることも必要だが、DVをしている人を助けてあげることも必要だと思う。私だったらDVを受けたとしても、相手が本当に大切な人なら周りに相談しながら、本人からもよく話を聞いて受け止めて助けてあげたい。

- ◆ DVについて考えたり、討論する時間をもっと持てる機会がほしいと思いました。
- ◆ メディアなどでも「DV」という言葉をよく聞きドラマにもなっている。怖いとは思っていても「自分は大丈夫だろう」と、たかをくくってしまっているのが本音です。最近ではインターネットで出会い、顔も知らない「誰か」と恋愛をしている子も多いので、すべてではないが「DV」被害を増長させているのではと思います。（ほんの一部での話ですが、殺人などのニュースも話題になるので。）
- ◆ お互いが傷つくような関係は長く続かないし、そうすることで愛情を表していると思うことは悲しいことだと思う。どんなに小さなことでも、お互いが話し合うことによって解決することが、より良い二人の関係性に繋がると思う。
- ◆ デートDVのような暴力で物事を解決させようとする考えは、小・中学生のいじめの問題に近いものがあると思う。個人的に考えることであるが、そのような人は人を軽んじている傾向にあるのだと思う。話し合い互いの意見を聞き合うことの大切さ、そして、意見を理解した上で話の結果を出すことを多くの人にしていきたい。
- ◆ 若い恋人間の「デートDV」は恋人間の関係で行われるDVなので非常にプライベートなことでも入りにくい領域であると思う。青少年のいじめや自殺は、大人の姿を見て育った子どもが繰り返して起こしてしまうことで、DVも同様であると思う。まずは大人のDVをなくすこと、DVが異常な行動であることを社会の常識として認知させる必要があると思う。

#### 4. 経験による意見（11件）

- ◆ 付き合っていた時には、デートDVの行為は彼からの愛情表現だと勘違いしていたが、別れてからあれはデートDVだったと気が付いた。愛情が自分の方が相手より大きいように感じられる状態だと、「相手が自分に対してした行為＝愛情」と受け取ってしまうのではないかと感じる。特に、良い愛情表現の間に暴力が挟まれていたら尚更で、デートDVであることに気付かない、あるいは認めないと思う。
- ◆ DVされている人は、誰かに相談したらその相談した相手からは「もう戻っちゃダメだよ。」って言われて、自分でもそう思っているのにまた戻っちゃって、その友達にはもう相談できなくなって、最終的には一人で悩むことになって、どうしようもなくなると思う。自分が今そうだから、DVされている人たちは本気で好きだから一緒にいるのだと思うし、お互いが依存しちゃっているから、山形からいなくなるか、どこか相手と離れたところに行かないと終わらないと思う。死ぬとか。
- ◆ デートDVに近い行為をされた友人の相談に乗ったことはたくさんあるが、話を聞いた上でアドバイスをしても、「相手のことをまだ好きだから。信じているから。私がいないとダメだから。」といった理由で全く進展しない場合が多い。最近では、どうせ相談に乗っても相手は考えや行動を改めることはないのだと、話をされても軽く受け流すことが多くなってしまっている。「暴力を受けている自分」を楽しんでいるように見えてしまう。

- ◆ 私の父は、しつけと言って叩いたり蹴ったりする人でした。それが当たり前だと思っていたから、悪いことをすると叩かれるし、悪いことをした人を叩いても良いと考えていました。父がしていたことが、しつけかDVかはわかりませんが、少なくとも誰かを傷つけるようなことを「しても良い」とか「しても当たり前だ」なんてことはないのだと、今の彼と付き合っただけで感じました。力で相手を抑えつけようとするのは、根本的に間違っている。自分がされたことがあるからやりかえすとか、自分もしても良いとか、そういう考えは捨てるべきだと思う。
- ◆ 恋人からの暴力はありえないことだし、あつてはいけないことだと思う。ふるわれている本人は「好きだから」って気持ちが上位になっていて、それで別れない（別れられない）と思うけど、恋人に対して殴ったりするのは大切にされていないことだって早く気付いてほしい。殴られるような人間なんか一人もいないのだから、もっと自分も大切にしてほしいと、以前、デートDVされているっぽい人の話を聞いて思いました。
- ◆ 当時付き合っていた彼は大学で知り合いました。とても優しくて明るく、暴力をふるう人だとは私も周囲の方もわからなかったと思います。最初は喧嘩の時、物などにぶつけていました。彼は幼い頃からそうだったそうです。大学でDV講習会があり、彼も自分のしていることは認識があるようで、罪悪感もあったようです。しかし、頭に血が昇ると暴れてしまうようでした。友達やネットを通して相談させていただき今はお別れしましたが、DVされていたことを思うとまさか自分がという気持ちです。もっと周りに救ってくれる手段があるといいと思います。
- ◆ 「DV」という言葉は知っていましたが、頭にデートが付く「デートDV」という言葉は知らなかったなので、この調査票が届いた時はとても驚きました。私自身、中学2~3年の時に付き合っていた彼からDVを受けていました。付き合っている時は、多少の暴言や暴力が私を愛しているからだと思っていましたが、後々考えてみると酷いことをされていたんだと気付きました。家庭に少々問題がある彼だったので、仕方がないと思っていました。（特にお金を要求されたり、脅されたりが多かったです。）今は素敵な彼に巡り合え、幸せに過ごしています。デートDVが世の中からなくなれば良いと心から思っています。
- ◆ 私が彼（DVをする人）と付き合っていた時は、私がおとなしくしていれば彼は怒らないし、「ずっと感情を無にしていよう」と思ったけど。この人と一生一緒にはいたくない！と思ってやっと抜け出せました。別れるのも怖いし大変だった。抜け出すのにすごく時間がかかったし、もっと早くに抜け出したかった。今では笑い話になるけど、当時は本当に怖かった。
- ◆ 肉体的な暴力はあまり聞かないが、女のアドレス・連絡先を消させるなどのいわゆる束縛などは自分の友人にも多いようだ。自分のパートナーがそうであったら、関係を続けられないと感じる。
- ◆ 暴力はされた側は深い心の傷を負い、暴力を受けた年齢が若ければ若いほど、後に残っていくと思います。デートDVではないですが、私は親から暴力を受けた経験から、男性不信・恐怖症です。被害を受けた人は誰にも話せず、苦しんでいる人が多いと思うので、誰かに話して少しでも気持ちが軽くなれるよう、無料相談など話せる窓口を広げることが大事かと思います。あと、その窓口の周知も。中・高生はなかなかわからないと思います。そして、暴力をしてしまった方もストレスや孤独感が強いこともあると思うので、加害側のケアもとても重要だと思います。被害を受けた人は自分から話せない人も多いかと思うので、その周りの家族や友人、時には行政からなど働きかけることも必要なのではないかとも思いました。

- ◆ 本当は暴力はあってはならないと思う。しかし、実体験からすると恋人依存や一人になりたくないという恐怖心からの言動だと言える。私にそれらをした相手も依存性が高く、自分で調べてみると共依存というものに当てはまるというのを知った。暴力の始まりは愛情かもしれない。受けている間は辛い苦しいと感じても、普段の優しい彼の姿を見ると忘れてしまったり、自分のことを好きだから、私も好きだしいなくなれる方が辛いと思ってしまったりで、結局何も変わらなかった。心理カウンセリングを受ける場があれば、また、もっと気軽にその施設を利用できるようになれば、何か変化をもたらすことができるのかなと思う。最後に私事ですが、暴力とかではなく、はっきり本音で話し合いをし、その彼と今も仲良く一緒にいます。他の人も一歩踏み出す勇気と自信を持ってほしいと思います。

## 5. 相談窓口について（8件）

- ◆ 小さい頃から相談窓口を知っていたり、これは相談してもいいことだと知っていれば、内にこもる人も減り、DVから逃げられる人も増えると思います。まずは周知させることが大事だと思います。私は個人的にDVなど肉体的、精神的暴力が大嫌いですので協力させていただきました。少しは役に立てばと思います。
- ◆ 実際にDVにあっている人は多くいると思います。ただ、誰に相談するべきなのか、わからない状態にいる人がほとんどのような気がします。なので、相談窓口がより周知されること、DVとはどういうことなのかを認識してもらうことが必要だと思います。
- ◆ 暴力はいけないこと。地域ぐるみできちんと教育していくべき。相談窓口の存在を知らない人が多いと思うので、周知を徹底してほしい。
- ◆ 時と場合に応じて、DVになり得たり、なり得なかったりと思うので、デリケートな問題だと思います。そのため、相談窓口のような全くの第三者には打ち明け難いと思います。
- ◆ 窓口を周知しても、相談員への教育がなされていなければ無意味だと思う。
- ◆ DVを防止するための教育やDVについて相談できる窓口を広く周知し、デートDVが少しでも減ってほしいと思いました。
- ◆ 他人同士だから考えていることが違う。DVだと感じても一時的に謝罪などされると、好きだから許してあげる→デートDV→謝罪と、負のサイクルが永遠に続いてしまう。DVされているなど他人にはあまり知られたくないと思うので、相談しやすい所をちゃんと紹介する。そして、相談してもらえるようにしてほしいです。
- ◆ DVの程度というのは、わかりにくいものだと思うし、まして自分の好きな相手からのDVとなると、我慢してしまう人というのが増えると思うので、デートDVを相談できる窓口を広く周知してほしいと思う。

## 6. 改善への願いについて（8件）

- ◆ 暴力がよろしくないのは確かでしょう。暴力が教育的に行われていたり、むしろ厳しい方が強くなったり、甘くすればそこを馬鹿にされたり、人間ダメになったり。って「デートDV」についてですか！仲良くしなせえ。殴っちゃや一よ。失礼しました。カラオケで反省会してきます。調査と集計、お疲れ様です。
- ◆ この「デートDV」などの暴力的な行為というのは、その後「犯罪」に繋がっていくのではないかと思うので、防止していくべきではないかと感じました。
- ◆ デートDVに限らずDVがなくなる世の中に、社会全体で取り組んでいけたら良いと思う。
- ◆ 絶対お互い好き同士でも、暴力はしてはいけないことだと思う。早くデートDVがなくなりますように。
- ◆ あってはならないと思います。
- ◆ 「デートDV」に関する経験はありません。その立場から思えば、「デートDV」の問題よりも「個人の一般的道徳心」の問題であるように感じます。しかし、精神的な意味を含めて「暴力」をゼロにしたいと皆が思うことは事実なので、取り組みは必要だと思えます。
- ◆ 減っていけばいいと思う。お互いに相手のことを考えて生活をしていかなければならないと思う。
- ◆ 男が女性を傷つけてはいけない。

## 7. 周囲のサポート体制について（7件）

- ◆ 最近聞くようになった言葉だが、意味を理解している人は多くないのではないかと思う。自分がデートDVの被害者だと気づいていない人がいるのであれば、それほど辛いことはないので、周囲が気づいて声をかけてあげるべきだと思う。
- ◆ テレビドラマなどを通じて、世間に知られるようになったが、それぞれの家庭での現状を把握するのは、とても難しいと感じます。相談しやすい環境づくりや、こういったアンケート調査も認識を深める良い方法だと思います。
- ◆ 公に時間を使ってもこれはどうにもならないと思う。多くの人は「自分は違う」と思っているので、他人事にしか捉えないのが現状。組織的にどうではなく、周りの人間が人を気遣うのが優先だと思う。窓口を設けても被害者は怖くて行けないのではないか。そこら辺の心理を理解できなければ、あなた方のやっている善良な行為は無駄になります。
- ◆ 「デートDV」をしたり、されたりしてしまうのは、心が成熟していない、あるいは心に深い傷を負っているからだと思っています。そういった人々の心を癒すのは簡単なことではないですが、まだ精神的に未熟な私自身は、周囲の人々の温かさに救われています。「デートDV」に関わっている人たちも、こうした温かい人々に囲まれば、きっと彼らに助けをもらいながら「デートDV」という壁を乗り越えていけると思います。問14に挙げられた取り組みも、「デートDV」に対する人々の理解を得ることができれば、それは有効だと思います。

- ◆ 暴力はする方がカッコよくなってしまい、後でやってしまったと、後悔するのが多いと思う。される方は抵抗するとまたぶたれるんじゃないか？と恐怖でいっぱいになります。周りの人が（友達とか）体のアザや変化を見たら話しかけて相談に乗ってあげてほしいと思う。暴力に暴力で返しても何にもならないし変わらない。
- ◆ どんな理由があっても人を傷つけるという行為はあってはならない。もっと相談しやすい環境を整えるべきだと思う。デートDVを受けているというのは好きな人からの暴力ということで、「恥ずかしいから」という理由などからなかなか相談しにくいことではないだろうか。周りが異変を敏感に察知し、助けてあげるといったことも必要であると思う。
- ◆ デートDVをされたことがある人、今されている人に誰かに相談している人は少ないと思います。

## 8. 理解し難い問題（6件）

- ◆ デートDVはもちろんするやつが悪いと思う。でも、されたらさっさと別れるべき。それでも別れず、ダラダラ付き合ってる人は馬鹿じゃなかろうか？「優しくて良い男はたくさんいますよ。」ってことを教えてあげたい。時間をもっと大切にしてほしい。
- ◆ ガキくさい行動で意味がないと思う。
- ◆ DVにあつたらすぐに別れればいい。
- ◆ 交際している相手を大切にするのは当然であると思っている。なので、その相手に対して暴力をふるい続けるのは理解できない。大切にできないのなら別れるべきだ。また、暴力をふるわれている方も「自分が悪いので仕方がない」ということも理解できない。そう言われてしまうとどうやって助けてあげれば良いかわからない。しっかりと自分の意志を持って、助けを求めてくれれば、こちらもなんとかすることができるのに。
- ◆ どうでもいい。
- ◆ 自分はされたり、したりしたことはないが、実際にする人がいるなんて信じられない。暴力で自分の力を見せつけたいのか。気持ち悪い。

## 9. 広報活動について（6件）

- ◆ 私はDVを受けたことがないからわからないけど、きっと世の中にはDVで苦しんでいる方もいると思うので、パンフとかメディアとかで、こういう行為があることを広めてもらい、苦しんでいる方を助けてほしいと思います。
- ◆ 自分がもしデートDVを受けたら、すぐに親に言ったり、窓口相談できるかわかりません。デートDVはいけないことだし、早くまわりに訴えるべきだとは思いますが、女性的にはその人が好きだし、耐えればいいんだとも思ってしまいます。また、窓口について知らなかったのもっと身近な場所（例えば、コンビニとかスーパーとか）にポスターを貼ればいいと思います。友達がそういう状況になった時は、私が助けてあげたいと思います。
- ◆ デートDVをしている人は、自分がDVをしているという意識がないと思うし、してもバレないと思っていると思う。だから、もっとメディアでデートDVについてたくさんの人に知ってもらって、自分がしている行為は犯罪だと気付かせた方がいいと思う。また、デートDVをする人は、その人が育ってきた家庭環境に何らかの問題があることが多いのではないかと思います。
- ◆ 自分に興味がないことに関しては、本当に全然知らないことが多いです。このアンケートが届いて、改めてDVについて考えさせられました。きっと日本中にも知らない人、興味すら持っていない人が多いと思うので、メディアを使って幅広く活動していくことが必要だと思います。きっと苦しんで、悩んでいる人は世の中にたくさんいるはず。そういう人たちを一人でも多く救ってほしいです。人の力って、すごい人を動かすことができると思っているので、ぜひ今後生かしてほしいです。
- ◆ テレビドラマでDVについて知り、とてもひどい暴力を女性が受けていて悲しくなりました。DVはとてもひどいことだと思うので、なくなればいいと思います。パンフレットやメディアを利用し、防止するような取り組みをしてほしいです。
- ◆ 大人になればなるほど、デートDVのようなことが身近になってくると思う。中・高校生からの周知も必要だが、大人の女性たちがもっとも重要だと思う。成人した人たちは、社会に出て生活していることもあり、一人で問題を抱えてしまうことが多くなってくると思う。実際、私もデートDVのことはあまり知らなかった。相談窓口もよく知らない。だからこそ、CMなどを使ってもっと広く知られるべきだ。

## 10. 家庭環境について（6件）

- ◆ 家庭環境が大きく関わっているような気がします。同級生の間でも、両親がいる家の友達はあまり今回のようなことは少なく、虚勢を張ったりする友達は親と話を何年もしたことがないという。
- ◆ する人は不幸な生い立ちがあると思う。大人の責任。
- ◆ デートDVという言葉は初めて耳にしました。子どもの頃に育った家庭環境が大きく影響すると思いました。
- ◆ こういった人間関係の問題は家庭環境が重要であると思う。日本の家庭は学校などの公共の教育機関に「すべての教育」を押し付けすぎていると感じている。何か問題があるとすぐ学校の責任にしてしまう。学校というコミュニティしかもたない子どもにとっては世界のどこで問題が起ころうが、ほとんどが当事者はそのコミュニティの部分集合であると思う。もっと欧米諸国に見習って、家庭の責任を考えるべきだと思う。私もそういう家庭を将来築きたい。
- ◆ 身近な友達の話に当てはまることもあり、驚きました。嫉妬深いだけと思いがちだったが、これを見て深刻なのだと感じました。正しい原因はわからないけど、育つ環境、親から受ける影響、また、中・高の周りのこと、社会に出るまでが大きく関わっているのではないかと感じました。家庭でどれだけ、その思いが尊重されるかで変わってくるのではないかと感じました。（例えば、親の姿を見て子どもは育つし、関わりも学んでいく）
- ◆ 暴力をふるうということは、家庭の教育などもあると思うが、性格上のものであれば直らないと思う。そういう人と交際しないように気をつけたい。

## 11. 暴力の基準の難しさについて（5件）

- ◆ 恋人がそういう性格であるならば、すぐに付き合いをやめるべきだと思うが、他人から言われて別れられるものであれば、悩まないのではないのでしょうか。何をもちて暴力とするのかは、実際は当人たちの問題であり、もし、本当に生死に関わるのであれば、第三者の介入もいたしかたないと思う。自分もそうであるように、友人もそのようなことで悩んでいるようであれば、全力で解決したいと思う。
- ◆ デートDVという言葉は何度か目にしたことがあったので知っていました。問5の項目を見て、暴力と思うものもあれば、何とも言えないものもありました。というのも、一般的にはデートDVと言われるものかもしれない項目でも、恋人間では暴力と思わないものもあると思うからです。二人の間でしっかりと信頼があり、意志疎通ができているのであれば、二人にとってはデートDVであるとは思わないこともあると思います。どのような行為がデートDVであるか、ということよりも、それぞれの個人の感じ方・気持ちの方が重視されるべきだと思います。ですが、このような調査に協力することで、よりデートDVということについて考える機会となったので、とてもよかったです。



- ◆ DVの程度は、人それぞれだし感じ方など全く違うと思うので、どこからどこまでがDVだとは言えないのが難しいところだと思います。お互いのことを思っているのであれば、デートDVやDVなどは起こらないはずなのですが、ストレスやちょっとしたことが理由になっているかも。一人ひとりが相手を思いやり、生きていくことが大切なのかなと思います。あと、相談できる人が周りにいると気持ちが全然違うと思います。デートDVが少しでも減るといいです。
- ◆ 問14においての学校などでの取り組みでは、あまり効果が得られないと思う。「デートDV」という言葉を知ることではできても、知るだけでたいして自分たちに変化が起こるとは思えない。デートDVについてはじめて考えさせられたアンケートだったが、どこからが暴力的なものに仕分けられるのが難しい。私の今の彼氏も遠距離で私が仕事をしており、なかなか会えないこともあって束縛がすごく、友達や知り合い（年上の方）に話すと100%別れを勧められるが、私にとっては「辛いけど、でもしょうがない」、「そのうり彼が変わってくれる」と思い、別れようとは全く思わない。人それぞれのためとても難しい問題だと思う。
- ◆ 別れようとする「手首を切ってやるから」って言って交際を続けさせたり、「生理中だから嫌だ」って言っているのにラブホへ連れていかれたり、そういう話を男子からも女子からもよく聞きます。カップルにはいろんな形があるし、当人じゃないとよっぽど酷い状態にならない限り、デートDVかどうか判断できないと思います。また、そういう友達が相談しようって思った時、いつでもかけられる24時間体制の電話がほしいと思いましたし、もしあれば、その番号の周知をもっと徹底してほしいと思います。

## 12. 精神的な暴力について（4件）

- ◆ 「デートDV」という言葉の認知度が低すぎて、意味がまったくわからなかった。また、「デートDV」という言葉が受ける印象と実際の意味が違い、混乱した。もう少し違う言葉の方が良いのではないだろうか。メディアでもまったく取り上げられていないようなものをいきなりこのようなアンケートに答えろと言われても困った。身体的な暴力ばかりがメインとして取り上げられているが、精神的な暴力（言葉の暴力）ももっと取り上げられるべきではないのか。言葉による暴力は女性が男性へというケースが多いので、見逃しやすいものなので、そちらへの注意も必要だと思う。
- ◆ 暴力だとわかっている、その力関係でしか繋がれない悪循環があるように思います。悪循環を繰り返している自分に気が付いた時が一番悲しいです。精神的DVとただの喧嘩、しつけの境界がわかりません。身体的、性的DVと比べて、精神的DVは軽く捉えられやすいような印象があります。

- ◆ DVは他人事ではなく、身近な問題だと感じています。暴力だけでなく、精神的な暴力もあることをもっとたくさんの人に知ってもらいたい。私は家族間で大人からの精神的DVを受けてきたと感じています。デートDVをする人は、幼少期を過ごしていく中で、何か問題があったのではないかと思います。（親や祖父母からのDV、接し方の問題など）ですから、デートDVをする人は加害者であり、被害者であると思う。だから、いくら学校で教育しても改善されないのだ。もっと深いところ、あるいは、傷が深くなり被害者から加害者になる前に食い止めるべきだと思う。やはり、他人の見えていない家庭の中まで介入していくのは難しい。もっとデートDVを身近にするため、ポスターなどをたくさん貼ってもらいたい。相談窓口電話など。まだまだ足りないと思う。
- ◆ 「DV」という言葉だけでも暴力的な印象を受ける。体を叩かれたり蹴られたりといった目に見えない体で感じることもあるが、言葉で嫌なことを言われたり無視されたりといった体に傷が残らない言葉の暴力も、精神的苦痛になるので「DV」と言えると思う。親が子へする場合もあるが、「デートDV」のように彼氏から彼女へ、彼女から彼氏への暴力もある。短期な子も多い世の中であり、現代の子は人間関係が希薄化しているので、「デートDV」も起こりやすいと考える。少しでも減るように多くの方に「デートDV」を知ってもらう必要があるだろう。

### 13. このアンケートについて（1件）

- ◆ このような問題は個人の受け止め方に大きく左右されるものなので、アンケートの結果は必ずしも実態を反映したものにはならないと思う。また、友人の話を聞いていると、そうした経験をやや自慢しているように感じた。

### 14. その他（5件）

- ◆ 俺は、高校の教師にDVを受けた。今でも思い出すと心が痛む。どこへ相談していいかわからなかった。あの教師は許せない！今でもやつらはいじめをやっているはずだ。俺はやつらに教えられたことは、やつらのような人間には絶対にならないこと！だけなんだ。県教育委員会に知ってもらいたいし、言ってもらいたい。あそこにいる教師は教師の面をつけた悪人です。
- ◆ 人間は喜怒哀楽の動物。DVを減らすことはできるが、この世からなくすことは絶対にできない。
- ◆ 私は自信を持って、デートDVをしない自信があります。これからは周りの友人に気を配りたいです。
- ◆ 家庭で起きているのか、親密な関係の人同士で起きているのか区別する意味が理解しかねます。起きている場所、関係の調査、分別をしても根本的な解決になるとは思えません。「デートDV」という言葉を使うことで少し遠い話のように思えます。まだ馴染みのない言葉を使うよりは「DV」と一まとめにした方が多くの関心を得られるのではないかと思います。この「デートDV」に関しては、個人の恋愛観や性格の問題だと思いますので、セミナーや相談窓口を設けても解決にはならないと思います。

## 第2部 調査結果の概要

- ◆ 彼氏が彼女に対し「ぶーちゃん」とか前の彼女と比べて太っているとか言っていて、彼女がほとんどご飯が食べられなくなった子がいます。その彼女は病院に行っても何も体に異常はなく、おそらく、ストレスなど精神的なものだろうと言われたそうです。その彼女に彼氏との別れを勧めても、やっぱり彼氏が好きらしく、今では一緒に暮らしています。一緒に暮らし始めても、全く食欲は戻らないみたいです。おそらく、彼氏も悪意があるわけではないみたいなんですが。その子は他の友達にも別れを勧められているみたいですが、全く別れる気はないみたいです。もう周りの人も私も見守ることしかできません。デートDVと関係あるのかわかりませんが、少し考えさせられた問題でした。